感来信長

極秘第一號

大正九年十二月九日

堀内海軍省軍務局長殿

松平外務省歐米局長

書留郵便

尼港砲撃事件處罰程度ニ關スル件

本件ニ關スル十二月三日附小幡公使發外務大臣宛第一二七號ノ趣ヲ以テ右處罰程度ニ關スル海軍側ノ意見大要左記ノ通ニ有之候條御參考迄申進候也

（記）

先任艦長及射撃艦艦長ニ於テハ能ク之ヲ其ノ他關係艦員ノ處罰ハ支那官憲ノ所信ニ委ス

右ハ海軍省ニ於テ日支國交ノ現狀及將來ニ鑑ミ寛讓歩セル所ニ有之之レ以上ハ到底讓歩ノ余地無之候而シテ右ハ折衝ノ資料トシテ御參考迄ニ申進スル次第ニ有之候

實行上ノ問題トシテハ支那ノ体面保持ノ念熾烈ナルニ鑑ミ成可ク處罰程度ヲ輕減スルコトヲ避ケヘ日本側ヨリ進テ前記處罰程度ヲ提出スルコトヲ避ケ先ツ先方申出ノ艦長及關係者ヲ處罰セリ云ヘル中ノ處罰ノ程度ヲ訊問シ之ヲ基礎トシテ折衝ヲ進メラルルヲ可ト認ムル海軍意見ニ有之候間御承知相成度右ハ申進スルモナキヤトナカヲ伺等ノ御參考迄ニ申上候次第ニ有之候

右申進ス

海軍

（納林小）

縮寫第一號

機密第一二行罫紙

5-1457

0206

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

花蓮支那砲艦砲撃事件関係者處罰ニ関スル陸海軍省ノ意見　十二月一日

一、陸軍省

陸軍省ハ艦長及関係艦員ヲ罷免シ尚之ヲ支那政府ニ於テ處罰セシムルヲ以テ至レリト思考スルモ参謀本部ハ頗ル強硬ナル意見ヲ保持シ右要求ノ外艦長ハ之ヲ嚴罰シ関係者ハ死刑ニ處スルコトヲ主張シ両者間ニ意見一致セサルヲ以テ目下協議中ノ趣ナリ

一、海軍省

先任艦長及砲撃艦長ノ懲戒ヲ以テ足レリトス関係者ハ単ニ上官ノ命令ニ従ヒタルニ過キサルノミナラス傭兵制度ノ支那ニ於テ兵卒ヲ處罰スルモ何等意味ヲ為サス（云居ル）

豊田中佐ノ意見

歐第一課
外務省

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

秘

閣議案　　十二月廿六日　　軍事課長佐藤

尼港ニ於ケル支那砲艦事件

調査費支出方ノ件

過般尼港ニ於ケル支那砲艦事件調査ノ為メ別紙ノ通金壱万参千弐拾六弗四拾五銭ノ費用ヲ要シタリ右ハ事件発生後時日ヲ経過シ調査最モ困難

5-1457

0208

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ナル事情ノ下ニ於テ必要不得已ニ出テタルモノト認メラルル處本事件ハ西比利亜ニ於ケル我軍事行動ニ関聯セルモノナルヲ以テ臨時軍事費ヨリ右費額ヲ支出スルコトト致度

月　日

外務大臣

陸軍大臣

（別紙支那砲艦事件費内譯表写添附ノコト）

5-1457

0209

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

文書課長

大正九年十二月十一日起草
同　年　月　日附

発第　　號

主管　歐米局長

主任　歐米第一課

自然不用トナリタルニ付廢案

在支小幡公使　　内田大臣

第　　号

貴電第一二七六号ニ関シ
当該艦長ハ罷免ノ上支那国法ニヨリ重キニ從テ處罰シ兵員及監督士官ハ罷免ノ上支那国法ニヨリ相當ノ處罰ヲ加ヘ右何レモ実行ノ上其ノ旨帝国政府ヘ通報セシムルヲ以テ當方要求ノ最少限ト致シ度ク右御含ノ上支那側ヘ可然御交渉アリタシ

外務省

5-1457
0210
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

歐米局長

支那砲艦事件ニ関スル件　大正九年十二月十一日　陸軍省

第三項處罰ニ関シ最少限度ヲ左ノ如ク支那側ニ要求致度意見

一、艦長ハ免官ノ上支那國法ニヨリ重キ處罰

二、兵員及監督士官ハ免官ノ上支那國法ニヨリ相當處罰

三、以上處分ノ後ハ帝國政府ニ報告セシムルコト

海軍回ス

十二月十日

陸軍

歐米第一課

5-1457

0211

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

5-1457

0212

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電信課長

大臣
次官
亞細亞
歐米
通商
條約
情報
人事
會計
文書
平和條約

要回付了

一八八七。暗 北京発
本省着 大正九年十二月十二日 前〇、三〇
后五、一八

内閣外務大臣 小幡公使

第一三一一號（至急）

又我條件第四項ニ就テハ支那側ニ對シ銀二万元トスル主張ナリシモ拒衝ノ末撫恤金ノ名義ニテ三万元トナスコトヲ承諾シ而シテ以上ニ對シ深泥、土肥原ハ果シテ本使ノ最認ヲ得ルヤ否ヤ計ラレストノ断リタル上兎ニ角本使ニ於テ次ク〳〵レトテ立分レタル趣ナリ本件ハ最近支那政府ノ意ヲ對スル態度相應強硬トナリ海軍部側ノ出方ニヨリ外交部側ノ壓迫ニ依ルヤ依ラサル處ニ依ルヤ最近大ニ喜ヒ来リ深泥、土肥原等ノ見メ暗ニ盡ス處アリタルモ右斡旋ノ結果ニテ今ヤ大ニ苦シキ立場ニ陥リ居ル模様ナル由ニテ前掲ノ解決案ヲ上奏ニ押シ付クルトモ承諾ヲ得ルニ ト恐ラク容易ナラサルヘク斡旋ノ事件ノ解決ヲ遷延セシムルニ依ルナキヤヲ恐ル就テハ前記解決案ニ依リ本件ヲ結了シ本使ト外交總長

5-1457

0213

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電信課長

一一八七二 暗

北京發 大正九年十二月十二日
本省着 〃 〃 〃 後六・

大臣 次官 亜細亜 歐米 通商 條約 情報 人事 會計 文書 平和條約

要回付了

第3門

内田外務大臣　　小幡公使

第一三一一號　至急

往電第一二七六號ニ對シテハ未タ御回電ニ接セサル處其後澤沢土肥原ト魅坊沈鴻烈トノ間ニ逐次内相談ヲ重ネタルカ十二月十一日ノ會見ニ於テ我提出條件第一項ニ付支那側ハ務リニ張副領事ニ関スル事項ヲ全然削除シ（支那砲艦カ日本兵三名ヲ射撃シタル事ノ事項ニ對シ遺憾ヲ表ス）トノ書キ方ニ止メ度シ

尼港の件

トノ否ヤ確定議トナレ然ルヘキヤ至急何分ノ御電訓ヲ請フ（終）

5-1457

0214

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ト盡長シ又人モ遂ニ応港事件ニ関シテハ支
那政府ハ共同判決所載ノ事件ニ対シ日本政府
ニ向テ遺憾ノ意ヲ表ス「道歉」ト為スコト
ニ同意シ但シ公文公表ハ日本側ノミニ於テ為
ス様我方ノ讓歩ヲ求メ又我條件第二項ニ付
テハ我要求通リ王業文浦潮ニ到リ我司令
官ニ對シ陳謝シ且ツ遺憾ノ意ヲ表スルコ
トニ同意シ又我條件第三項ニ付テハ双方論
議ヲ盡シタル末支那側ヨリ該艦長ヲ免職
シ兵員ハ犯罪ノ輕重ニ按シテ六ケ月以上ノ

年以下ノ重禁錮ニ處シ唯監督士官ハ此等
軍艦ハ何レモ小砲艦ニテ艦長即チ之カ監督
士官タリシノミナラス士官ノ殆ント從テハ陸
上ニ在リタルコトヲモ斟酌シ之カ處罰ヲ免ス
ルコトヲ求メ且ツ是等處罰實行ノ結果ハ追
テ海軍部ヨリ日本側ニ口頭ニテ通知スルコ
トトスヘキモ右處罰ノ内容ハ日支双方トモ
之ヲ公表セサルコトト為サシムルコトヲ求メ

（續ク）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電信課長

大臣
次官
亞細亞
歐米
通商
條約
情報
人事
會計
文書
平和條約

北京發 大正九年十二月十七日後一、三五
本省着 〃 〃 〃 八、一〇
一九一七〇 暗

内田外務大臣　小幡公使

第一三三九號

貴電第七一九號ニ關シ
十二月十六日深澤ヨリ土肥原ヲシテ我方ニ於テ
枉ケテ承諾ノ次第ヲ熊坡ニ告ケシメタル結
果外交部側ニ於テハ一應閣議ニ附シタル上
大約ヲ來週火曜日迄位迄ニ必要書類作成等
全部完結方取運フヘキコトニ打合セ濟ミタル趣
ナリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一八七二 暗

北京發大正五年十二月十二日 后一二・

本省着 〃 〃 〃 后六・

内田外務大臣　小幡公使

至急

第一三一一號

往電第一二七六号ニ對シテハ未タ御回電ニ接セサル處其後深沢土肥原ト魏埃沈鴻烈トノ間ニ逐次内相談ヲ重ネタルカ十二月十一日ノ會見ニ於テ我提出條件第一項ニ付支那側ハ暮リニ張副領事ニ関スル事項ヲ全然削除シ（支那砲艦カ日本兵三名ヲ射撃シタル等ノ事項ニ對シ遺憾ヲ表ス）トノ書キ方ニ止メ度シ

ト主張シタルモ遂ニ尼港事件ニ関シテハ支那政府ハ共同判決所載ノ事件ニ対シ日本政府ニ向テ遺憾ノ意ヲ表ス「道歉」ト為スコトニ同意シ但シ公文公表ハ日本側ノミニ於テ為ス様我方ノ讓歩ヲ求メ又我條件第二項ニ付テハ我要求通リ王崇文論潮ニ到リ武司令官ニ對シ陳謝シ且ハ遺憾ノ意ヲ表スルコトニ同意シタルモ又我條件第三項ニ付テハ双方論議ヲ盡シタル末支那側ヨリ該艦長ヲ免職シ兵員ハ犯罪ノ軽重ニ按シテ六ケ月以上一

5-1457
0217
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一八七二
暗
北京發 大正九年十二月十二日 后
本省着 〃 〃 〃 後六、

内田外務大臣　小幡公使

第一三一一號（至急）

往電第一二七六号ニ對シテハ未タ御回電ニ接セサル處其後渾沢出肥原ト魅坑沈鴻烈トノ間ニ逐次内相談ヲ重ネタルカ十二月十一日ノ會見ニ於テ我提出條件第一項ニ付支那側ハ之ニ關スル事項ヲ全然削除シ（六三名ヲ射撃シタル等ノ事表ス）トノ書キ方ニ止メ度シ

ト主張シタルモ遂ニ庙港事件ニ關シテハ支那政府ハ共同判決所載ノ事件ニ対シ日本政府ニ向テ遺憾ノ意ヲ表ス「道歉」ト為スコトニ同意シ但シ公文公表ハ日本側ノミニ於テ為ス様我方ノ讓歩ヲ求メ又我條件第二項ニ付テハ我要求通リ王崇文浦潮ニ到リ我司令官ニ對シ陳謝シ且ツ遺憾ノ意ヲ表スルコトニ同意シタル又我條件第三項ニ付テハ双方論議ヲ盡シタル末支那側ヨリ該艦長ヲ免職シ兵員ハ犯罪ノ軽重ニ按シテ六ケ月以上一

十三日 當日午後電報
海軍 無異議
大体ニ於テ異存ナシ
軍事課

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

事以下ノ重禁錮ニ處シ唯監督士官ハ是等
軍艦ハ何レモ小形艦ニテ艦長即チ之カ監督
士官タリシノミナラス士官ノ3分ノ1位ニテハ陸
上ニ在リタルコトソモ稀ナリシ之カ處罰ソ免ス
ルコトソ出ツ是等處罰實行ノ件案ハ進
テ海軍部ヨリ日本側ニ口頭ニテ通知スルコ
トトスヘキモ右處罰ノ内容ハ日支双方トモ
之ヲ公表セサルコトト為サルコトソ求メ

（續ク）

5-1457

0219

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

大正九年十二月十四日接受

主管 欧

暗 第一課

要手渡

電受16051号

外務大臣

極秘

要目付了

大正九年十二月十二日后八・四五 北京発
十三日前六・一〇 海軍省着

在支帝国公使館附武官

海軍次官
軍令部次長

第四三五番（暗號）

尼港事件交渉ハ累信ノ如ク委員ヲ設ケ下協議シ為スヿニ決シ九日及十一日ノ二回協議シ其外別ニ裏面ニ於テ種々交渉ノ結果昨十一日我要求ニ對シ漸ク左ノ如ク意見ノ一致ヲ見タリ

（一）第一項ハ共同判決全体ニ對シ支那政府ハ遺憾ノ意ヲ表スル事

第二項ハ王司令、甫塩ニ至リ同様遺憾ノ意ヲ表スル事

第三項ハ重キニ從テ處分シ先任艦長ハ之ヲ罷免シ関係下士卒ハ其ノ罪科ノ軽重ニ依リ半年以上一年以下ノ重禁錮ニ處スル事、但其處罰ノ内容ハ海軍総長ヨリ小官ニ人ヲ派シテ報告スル事

（二）弔慰金ハ三万円トスル事

右ノ結果ハ公使ヨリ外務大臣ニ請訓セラル、筈ナリ鄙見ニテハ是以上ノ結果ハ到底得ラレサル事ト思考セラル此辺ニテ本事件ヲ結了セシメラル、方有利ナルヘキヤニ思ハル

念ノ為

尚本件解決ニ就テハ薩総長他ノ故障ヲ排シテ極力努力セラレタリ、申添フ。

十二日

砲艦ノ件

5-1457

0220

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電信案（略）

歐米局長

歐米局第一課

電送第一〇七〇一號略
九年十二月五日　時　分發

大臣
次官

在支
小幡公使（要目付了）

内田大臣

第七一九號

貴電第一三一一號ニ關シ陸海軍側ト協議ノ結果御申越ノ解決案ニ依リ本件ヲ結了スルコトニ三省ノ意見一致シタルニ付貴官ハ至急右樣御措置アリタシ

外務省

陸軍軍務局長宛
海軍軍務局長宛

0221

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一九一七〇
暗

北京発 大正九年十二月十七日後一、三五
本省着 〃 〃 〃 八、一〇

内田外務大臣 小幡公使

第一三三九號

貴電第七一九號ニ關シ
十二月十六日深澤土肥原ヲシテ或方ニ於テ柱ナテ承諾ノ次第ヲ熊核ニ告ケシメタル結果外交部側ニ於テハ一應閣議ニ附シタル上大体ノ來週火曜日迄ニ必要書類作成等全部完結方取運フヘキコトニ打合セ濟ミタル趣ナリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

大正九年十一月十七日

閣議決定

外務大臣 子爵 内田康哉

過般尼港ニ於ケル支那砲艦事件調査ノ為メ別紙ノ通金壹萬參千六拾六圓四拾五錢ノ費用ヲ要シタリ右ハ事件發生後時日ヲ經過シ調査最モ困難ナル事情ノ下ニ於テ必要不得已ニ出テタルモノト認メラルル處本事件ハ西比利亞ニ於ケル我軍事行動ニ關聯セルモノナルヲ以テ臨時軍事費ヨリ右費額ヲ支出スルコトト致度

外務省

5-1457

0223

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

支拂砲艦事件費内譯表

一金壹萬參千六拾六圓四拾五錢

内譯

金八、三八五、〇〇〇　報酬

金一、〇三七、二〇〇　接待用料理材料費

金　一六五、〇〇〇　同　雜品代

金三、四一〇、五〇〇　船舶ニ関スル費用

金　六八、七五〇　寫真材料費

但右ノ内金參百圓花岡書記官ヨリ受領ノ分ヲ含ム

右之通候也

大正九年十月五日

外務省

薩哈嗹州派遣軍司令部勤務

陸軍三等主計山根留藏

5-1457

0224

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

浄書ノ上 両大臣ニ署名ヲ

大臣

次官

會計課長

歐米局長

（閣議案） 十二月十七日閣議決定

歐米第一課

尼港ニ於ケル支那砲艦事件

調査費支出方ノ件

過般尼港ニ於ケル支那砲艦事件調査ノ為メ別冊（紙）明細書ノ通金壹萬参千六拾六圓四拾五銭ノ費用ヲ要シタリ右ハ事件發生後時日ヲ經過シ調査最モ困難ナル事情ノ下ニ於テ必要不得已ニ出テタルモノト認メラルルニ付本件ハ當局ニ於テ處李事件ハ西比利亞ニ於ケル我軍事行動ニ關聯セルモノナルヲ以テ大正十年臨時事件費（臨時軍事費）中ヨリ右費額ヲ支出スルコトト致度

月 日

外務大臣

外務省

5-1457

0225

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

「陸軍大臣」
別紙アリ至急
[illegible]
児玉少佐ヨリ
申出アリタリ
大陸軍大臣ハ
関係ニ於テ
同意ヲ表セラ
ルヘキモノ[illegible]

陸軍大臣

（別紙支那砲艦[illegible]ノ件[illegible]）

外務省

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

支那砲艦事件費内訳表

一、金壱萬参千六拾六円四拾五銭

内訳

金八、三八五、〇〇〇　報酬

金一、〇三七、二〇〇　接待用料理代料費

金一六五、〇〇〇　仝　雑品代

金三、四一〇、五〇〇　船舶ニ関スル費用

金六八、七五〇　写真代料費

但右ノ内金参百円花関書記官ヨリ受取リ分ヲ含ム

右之通候也

大正九年十月五日

薩哈嗹州派遣軍司令部勤務

陸軍三等主計　山根侶藏

領収書類写添附ス

外務省

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

文書課長

大正九年十二月十八日発送　65

大正九年十二月十七日起草

同　年　月　十八日附

別紙

大正九年十二月十八日接受済　機第一課

要再回　次官　機密　至急

廿一政　機密送第一四二號

欧米局長　主管

要目付了

外務次官

陸軍次官宛

尼港ニ於ケル支那砲艦ノ件

調査委員会告方ノ件

本件ニ関シ本月十七日別紙写ノ通

関係陸軍[illegible]致シ置キタル陸海軍[illegible]ニ付テハ貴

省内ニ於テ委員及調査員数等[illegible]ヘ至急[illegible]

（御差支ナキ限リ[illegible]）

此段申進ス

別紙添付

一、十二月十七日関係者協議案

二、[illegible]

外務省

0228
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

閣議案

尼港ニ於ケル支那砲艦事件調査費支出方ノ件

陸軍大臣ノ署名削除ノ件

陸軍省

十一月十七日閣議決定

過般尼港ニ於ケル支那砲艦事件調査ノ為メ別紙ノ通

金壹百参千六拾六圓四拾五銭ノ費用ヲ要シタリ

右ハ事件発生後時日ヲ経過シ調査最モ困難

5-1457

0229

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ナル事情ノ下ニ於テ必要不得已ニ出テタルモノト
認メラルル處本事件ハ西比利亜ニ於ケル我軍事
行動ニ関聯セルモノナルヲ以テ臨時軍事費ヨリ
左費額ヲ支出スルコトト致度

外務大臣

陸軍大臣

別紙支那駐箚軍事件費内譯書添附ス

5-1457

0230

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

大臣
次官
亜細亜
歐米
通商
條約
情報
人事
會計
文書
平和條約

電信課長

19261 暗

尼港支那艦砲撃ノ件

北京發大正九年十二月十八日後四、二〇
本省着 〃 十九日前九、二七

内田外務大臣　小幡公使

第一三四一號（至急）

要目付了

往電第一二三九號ニ関シ

十二月十七日宴會ノ節面會シタル顔外交総長傳言トシテ本使ニ對シ尼港事件モ遂ニ双方ノ互譲的態度ニ依リ幸ニ解決案ノ決定ヲ見タル處本件ハ今日迄餘リ支那新聞ノ論議ニ上ラサルヲ幸ヒ遺憾ヲ表スル公文ハ東京ニ於テ支那公使ヨリ支那政府ノ命ヲ奉シ帝國政府ニ送付スルコトトシ以テ少シニテモ世上ノ注目ヲ避ケ両國間ノ感情ヲ阻隔スルカ如キ論議ノ種トナラサル様致度旨申傳ヘタルニ付本使ハ此ノ如キ取計ハ果シテ總長希望ノ如キ結果ヲ獲ヘキヤ否ヤ疑ナキニアラサルモ先以テ支那公使ヨリ帝國政府ニ送付セラルヘキ公文ノ内容ヲ当方ニ内示セラレ豫テノ了解通リノモノナラハ之ヲ東京ニテ帝國政府ニ交付セラルルコトハ本使限リトシテハ異存ナキモ一應東京ノ意見問合（脱）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

控エ置ケリ若シ右ニ對シ御異存アラハ至急其旨御回示ヲ請フ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電信課長

大臣
次官
亜細亜
歐米
通商
條約
情報
人事
會計
文書
條約實施

一七五五八
(暗) 北京發
本省着 大正九年十月十九日 二十日 前 八時三十分 后 ...

内田外務大臣 小幡公使

第一二三五號

往電第一二〇三號ニ關シ
支那側節略ニ對シ先ヅ第一條件ニ付兒
ニ角軍艦旗ヲ揭載セル支那海軍艦船
及其乘員ノ行動ニテ又現ニ支那政府自
身モ既ニ士官水兵ノ處分遺族ニ對スル事
等異議無キヲ言明シナガラ一方中央政
府責ニ任セズトハ矛盾ノ甚シキモノナルコト
ヲ敗シタル後江亭監視兵機關銃射
擊(脱)滿集ヲ穿ケ死骸ヲ投下シタルハ
明カニ事實隱蔽ヲ圖リタルモノナルコト
右同判決ニモ明記シアルコト上陸水兵ノ日本
兵射擊ハ誤解ニ出デタルニセヨ軍艦乘
員ノ所爲タル以上政府ノ責ニ任ズベキハ
幾多事例ニ徴シ當然ナルコト支那副
領事ガ馬賊ト選バザル舊軍ト交際ニ努
メシハ縱ヒ個人的トスルモ官規上不穩當ナル

陸軍

5-1457

0233

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ノミナラズ該領事ハ尚自己護衛ノ為
赤軍将士ヲ嗾シ哨ニ用ヒ又物資ヲ赤軍
ニ供シタル等ノ事実モ有之ニヨリ五連砲装
一門ノ外ニ付江亨艦長ハ西女スルニ其ノ職
責ヲ盡シタルモノト認メ難ク其赤軍ニ利
用セラルヽ隙ヲ與ヘタルヤ否ヤヲ問ハズ又那政
水兵ノ[redacted]教授ハ勿論ニテ支那軍艦及官
府責ニ任ズベキハ無論ニテ支那軍ノ士氣ヲ振ヒ従ツテ
當ニ行動カ赤軍ヲ援ケ
日本側惨害ヲ大ナラシメタル事実ハ本

付善後處理ヨリ考慮ヲ要スル事等ニ
付詳細説明ヲ加ヘ（了）

5-1457

0234

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

複寫

電受第一七五五八號　暗

北京發
大正九年十一月十九日　八、三〇
本省着
二十日前八、〇〇

内田外務大臣

小幡公使

第一二三五號

往電第一二〇三號ニ關シ

支那側節略ニ對シ先ヅ第一條件ニ付兎ニ角軍艦旗ヲ掲載セル支那海軍艦船及其乘員ノ行動ニテ又現ニ支那政府自身モ既ニ士官水兵ノ處分遣族ニ對スル事等異議無キヲ言明シナガラ一方中央政府責ニ任ゼズトハ矛盾ノ甚シキモノナルコトヲ駁シタル後江亭監視兵機關銃射撃（脫）ハ明カニ事實隱蔽ヲ圖リタルモノナルコト溝渠ヲ穿チ死骸ヲ投下シタルハ明ト共同判決ニモ明記シアルコト上陸水兵ノ日本兵射撃ハ誤解ニ出デタルニセヨ軍艦乘員ノ所爲タル以上政府ノ責ニ任ズベキハ幾多事例ニ徵シ當然ナルコト支那副領事ガ馬賊ト選バザル赤軍ト交際ニ努メシハ縱ヒ個人的トスルモ官規上不穩當ナルノミナラズ該領事ハ尚自己護衞ノ爲赤軍兵士ヲ歩哨ニ用ヒ又物資ヲ赤軍ニ供シタル等ノ事實モ有之コト五連砲裝一門ノ件ニ付江亭艦長ハ要スルニ其職責ヲ盡シタルモノト認メ難ク其赤軍ニ利用セラルヽヲ豫知シタルヤ否ヤヲ問ハザルコト水兵ノ操砲教授ハ脅迫ト否トヲ問ハズ支那政府責ニ任ズベキハ無論ニテ支那軍艦及官憲ノ行動ガ赤軍ノ士氣ヲ援ケ從ツテ日本側慘害ヲ大ナラシメタル事實ハ本件前後處理上考慮ヲ要スル事等ニ付詳細駁論ヲ加ヘ（續ク）

外務省

外務省

5-1457

0235

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電信課長

大臣
次官
亜細亜
欧米
通商
條約
情報
人事
會計
文書
平和條約

19366
暗
北京発 大正九年十二月廿日後五、三〇
本省着 廿日後九、三八
内田外務大臣 小幡公使

第一三四六号

往電第一三四一号ニ関シ十二月二十日外交部ヨリ熊秘書ヲ當館ニ遣ハシ胡公使ヨリ提出スヘキ外交文案ヲ内示シタルカ其ノ文句左ノ通

「照會冒頭常用語略ス」査スルニ本年三月中露境「ニコラエフスク」地方ニ於テ不幸ナル事件ヲ發生シタルニ付双方ヨリ委員ヲ派シ調査シタルカ支那政府ハ両國素日親善ノ趣旨ニ基キ共同判決所載スルトコロノ事件ニ対シ特ニ日本政府ニ向ッテ道歉ス本使ハ茲ニ政府ノ訓令ヲ奉シ此ノ意ヲ貴大臣ニ轉達ス則チ査照ヲ希フ」

本使ハ右案文ニテ異存ナキ旨先方ヘ答
〔置〕テアリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電信課

欧米局長

欧第一課

当大臣

電送第10866號
大正9年12月20日前后7時半分發

在支
小幡公使
第七三一号

貴電第一三四四号ニ関シ貴見ノ通リ取計ハレ差支ナシ

要目付了

外務省

5-1457

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電信課長

大臣
次官
亜細亜
欧米
通商
條約
情報
人事
會計
文書
平和條約

一九五八九　暗

北京発　本省着　大正九年十二月廿三日后七、〇〇　廿四日前七、〇〇

内田外務大臣　　小幡公使

第一三五八號（至急）

往電第一三三八號第一三三九號ニ関シ
外交部ヨリ十二月廿一日附公文ヲ以テ本案ニ関シテハ十一月十七日貴公使ヨリ覺書ヲ面交セラレ本部答復ノ各節ニ對シ未タ満足セラレス査スルニ本件ハ双方ノ意見未タ悉ク一致シ能ハサリシモ早ク解決ヲ希望スルコトハ両國政府情ヲ公フシ双方員ヲ派シ接洽セシメテ解決方法ヲ籌商セシムルコトトシタルカ該員等互ニ譲歩ノ趣旨ヲ以テ屡次接洽シ左ノ通リ議定セリ

（一）、在東京支那公使ヨリ公文ヲ以テ貴國政府ニ向ヒ道歉スルコト
（二）、十月廿六日貴公使覺書第二ハ照辨ヲ應允ス
（三）、右覺書第三ハ仝前
（四）、卹金三万元ヲ給與ス

5-1457

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

以上ノ方法ハ既ニ双方人員ノ議妥ヲ経居ル二ヶ条既ニ海軍部ノ照会承諾ヲ経タルカ惟フニ貴公使亦必ス賛全セラルヽ依テ右回答ヲ得テ右通リ取運セラレト申越来リ

右外交部来翰ニ対シテハ本使ニ於テモ全意ノ旨ヲ回答シ猶ホ全日附別信ヲ以テ本件解決方法中第三ニ関シテハ往電第一三六六号中(四)ノ通リ解通セラレ尚ホ付為念申送リ置ク旨書送ル答リ然処十二月九日深沢ニ対シ日本側ニ於テ艦長其ノ他ニ対スル処罰ノ内容ヲ公表セラレタキヲ望ムト念ヲ押シ尤モ単ニ支那政府ノ日本ノ要求ニ応シ夫々処罰セラルヽト発表サレタコトノ勿論差支ナシト述ヘ居タル趣ナリ(終)

5-1457

0239

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電信課長
大臣
次官
亞細亞
歐米
通商
條約
情報
人事
會計
文書
平和條約

第 門

19729

暗

上海發
本省着
大正九年十二月二十六日后一〇
二十七日前五、一〇

山崎總領事

内田外務大臣

要目付了

第四一一号

在支公使發本官宛電報第二三一号外務大臣ヘ轉電アリタシ並南京ヘ暗號ノ儘郵送アリタシ尼港砲艦事件ニ關シ外交部トノ間ニ交渉ヲ重ネタル末條件「一」ハ在本邦支那公使ヨリ帝國政府ニ對シ公文ヲ以テ遺憾ノ意ヲ表スルコト「二」及「三」省略「四」ハ遭難者遺族全体ニ對シ三萬元ヲ給與スルコトニ決シ十二月二十一日外交總長ヨリ本官宛公文ヲ以テ右ノ趣本官ニ通知シ同二十四日本官ヨリ右ニ異存ナキ旨ノ回答ヲ發シ茲ニ本件交渉ヲ結了セリ不取敢貴官御含ミ迄在支各總領事並浦塩政務部ニ電報シ上海ヨリ大臣

〈轉電シ南京ヘ暗号ノ儘本件要求條件ト共ニ郵送セシム

5-1457
0240
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電信課長

大臣
次官
亞細亞
歐米
通商
條約
情報
人事
會計
文書
平和條約

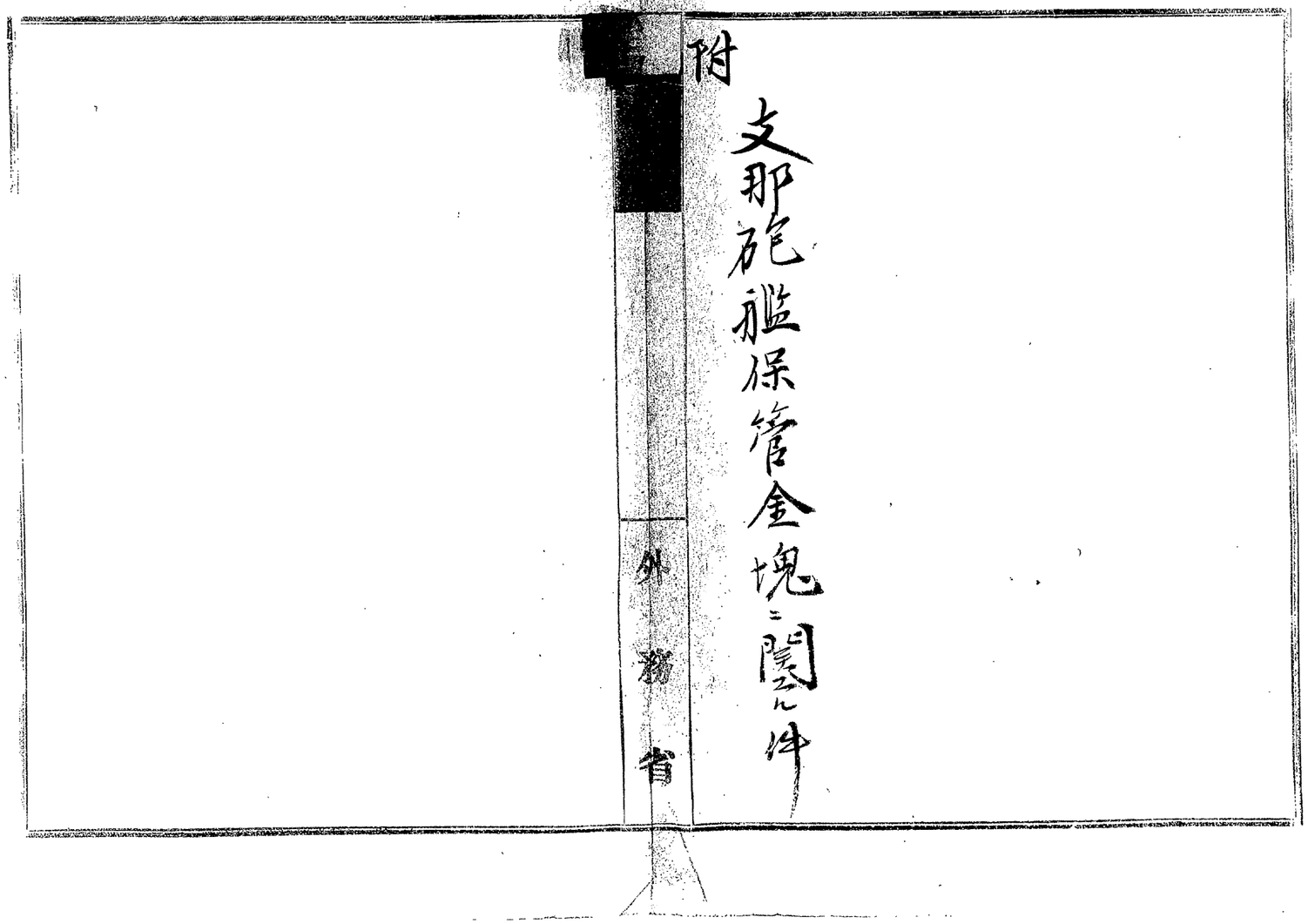
要旨付了

大正拾年壹月廿壹日記錄第二部接受

5-1457

0241

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp


附
支那砲艦保管金塊ニ關スル件
外務省

5-1457

0242

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

秘

第一門 受10072號

大正九年八月拾日 接受 政務局 第二課

機密第四八號

大正九年七月二十七日

在尼港
大使館一等書記官花岡止郎

秘書課

外務大臣子爵内田康哉殿

極秘

支那側ヵ過激派ヨリ金塊ヲ受領セル件

當地支那領事及支那商人ヵ過激派ヨリ金塊、金銀製品其他ヲ受取リ之ニ對シ物資ヲ供給シタルノミナラス領事ニ於テハ右ヲ担保トシテ上海其他ニ物資注文ノ仲介ヲ爲シタルコトハ既ニ再三及電報置候處今般當市住民ヨリ別紙ノ通尼港過激派ハ當市在住日露西国民ノ金塊其他貴金属類ヲ奪取シタルヲ以テ支那領事及支那商人ト取引ヲ爲シタルニ依リ其取戻方盡力アリタキ旨請願有之其大要七月二十四日電報ヲ以テ申進置候ヘ共茲ニ爲御參考機該原文寫ニ通及譯文一通及御送附候条御査覧相成度此段申進候　敬具

外務省

5-1457

0243

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

日本陸軍民事部充

黒龍省牙尼市ノ委員（ウポルノモーケー）ヨリ

陳情書

過激派強盗團カ尼港ニ入リシ瞬間ヨリ該地撤退ノ其日迄彼等
役所ノ組織的機関ハ良民ニ対シ掠奪ヲ行ヒ又之レヲ殺戮セリ
其第一着ニ掠奪セラレシ者ハ「ミルレル」「リユーリ」「アツケルマン」其他ノ人々ナリ
過激派常ニ現金（金塊、砂金等ヲ掠
奪セリ、金、銀細工ノ一部ハ之ヲ官立治金所ニテ溶解シ以テ國
立銀行金庫ニ保管セル公務備金ニ合体セリ、三月十日以後露
國人ヲ掠奪セル貴重品ニ日本人ノモノモ加ヒタリ即チ前陸軍集会
所ノ隣ノ建物ニ位置セル日本憲兵隊本部金庫及「ポスト」島田ノ
地所内ニアリシ日本領事館ノ金庫ハ破壊掠奪セラレタリ過激派ノ
語ニ依レハ各金庫ヨリ現金及金細工品ヲ取り去リ「ポスト」島田及ビ

領事館ノ屋敷内ニハ精金機械サヘ設ケラレ金ヲ
採取スル目的ニテ土ヲ洗滌シ居タリト此機械ハ約二ヶ月働キシヨリ獲
タル金ハ「コムニーサール」「オツエドウイリ」ニ渡サレタリト此点ニ関シ経理局金
納係「ゲ、ゲ、ミハイリク」ノ證言ニ依レバ官設採金所支配人「リコロフス
キー」ニ金約四布度渡サレタリト、幾布度ノ金ガ洗練セラレタリヤ具体
的ニ確實ナラサルモ推測及風聞ニ依レバ約十布度ハ洗イ去ラレタルモノト思ル
此外総テノ殺サレタル日本人ノ家ニ在ル貴重品ハ掠奪セラレ此等ノ一
部ハ同ジク金棒ニ鋳直サレタリ結局幾何ノ金カ過激派ノ其
領袖等ノ手ニ取ラレタリヤハ今日迄判明シ得ス唯残サレタリ何故ナレハ
此等ノ領袖ハ関係者及此遺金届ノ事ヲ知ルモノハ悉ク之ヲ殺サレタリ
國立銀行支配人「エヌ、エス、ムルスイク」檢察官「ウオローズビン」出納係
「イビン」始金倉支配人「ソコロフスキー」鑑定人「ユトリン」及他ノ若干者
如キ有力ナル證人ハ総テ生存セアラス、掠奪シ且ツ鋳直

5-1457

0244

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ヘタル金ノ其後成行キ次ノ如シ共産的状態ニ入ラシメ又総テ者ヲシテ働
カシムル為メ過激派ハ全然個人商業ヲ禁スルニ決セシカ支那人モ其
中ニ含マレアリタリ然ルニ過激派カ「クンスト」「チューリン」「ブレムキン」快
済會」等露國商店ヨリ取リタル物資カ不足ナルノミナラス支那商店
閉鎖ハ過激派ニ対スル支那居住民ノ親善ヲ破壊スル恐アルヲ以テ過激
派ノ領着袖等ハ銀行ノ金庫ニ保管シアル金払ヒヲ以テ支那人ノ物資
ヲ悉ク購入スルニ決セリ但シ此金ハ掠奪又ハ殺害セラレタル個人ノモノヲ混シタ
ルモノニテ即チ鮮血ノ跟ヲ附着スルモノナリ又支那商人カ其貨物ノ代トシ
テ受取リタル純金十四布度アリ此数ハ国立銀行ノ計算係「フェオドシ、
ドテーソウイチ、ハバロフ」及「ピョートル、ニコライウエチ、コロレフ」之ヲ證言シ得
ヘシ前記人々ハ尚ホ次ノ事ヲ證言シ得此十四布度ノ金ノ外ニ同
シク国立銀行ノ金庫ヨリ別ニ、ニ布度ニ「フント」ノ金ヲ尼港ヨリ
物資購入ニ派遣スル購買委員カ哈爾賓露亜銀行ヨリ信用
貸シヲ受クルコトヲ斡旋シ貰フカ為メニ支那領事ニ渡サレタリ其他
「ニコラエフスク」及浦潮ニ於テ噂アリ曰ク浦潮、上海及日本ニ物資
講入ノタメ派遣ヲ命セラレタル代表者ハ金十布度ヲ取出シ上海
為替スルタメ之ヲ支那領事ニ引渡セリトカ本件ニ関シテハ「ゴンチ
ヤロフ」ト共ニ購入ノ為ニ派遣セラレタル「アレクセーフスコエ」村ノ「プ
ロンゲ」ガウリレンコ」ヲ審問スルノ必要アリ噂ニ依ルニ同人ハ「汽船」ニテ
ツヒ號ヲ以テ「ニコラエフスク」ニ帰来セリト、過激派カ財物ヲ掠奪シ
市街ヲ破壊シ逃走シタル今日ニ於テ過激派ノ残セシ荒廃地ニ
新タニ「ニコラエフスク」代表者会ト称スル共同団体ヲ組織セリ吾
人代表者ハ日本司令部ニ向ツテ歎願スル處ハ支那商人ニ支
那領事ヨリ其有スル金「十六プード」二十「フント」ヲ露国住民ノ正當ナ
ル代表者タル吾人ニ引渡サシムルコトニ付キ援助ヲ受ケントスルニアリ
前記歎願ノ理由ハ「ニコラエフスク」過激派ハ国際慣例ノ見地ヨリ

陸軍

5-1457

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

陸軍

法ヲ正當ナル地方官憲ト見做スヲ得スト云フニアリ彼等ハ單ニ領事及支那當局ノ惡意知スル處ニテ曰本居留民全部及收容セラレタル露國人全部殺害セラレタル上ハ特ニ其ノ然ルヲ認メ得ヘシ斯ル官憲トハ如何ナル契約ヲ締結スルヲ得ルヤ若シ其レニモ拘ハラス彼等ト契約シ各種ノ委託ヲ受ケタリトセハ更ニ國際法及國際道德ノ見地ヨリ凡テ斯ル契約ハ明カニ不當ノモノト認メサルヘカラス、過激派ト支那領事及支那當局ノ間ニ締結セル契約ノ不法ナルコトハ過激派カ既ニ前述セル如ク支那ニ當テラレタル金ノ一部ハ露國良民及日本人ヨリ掠奪シタルモノニ係リ盜品ナルハ明カナルモノトシテ、如何ナル場合ニ於テモ必ス勤勞及物品代トシテ受領スヘカラサルモノナルニ鑑ミルモ之レヲ知ルヲ得ヘシ、本件金ハ最初ノ所有者即チ露國及日本人ニシテ證據ヲ提出シタル者ナルヘク掠奪ノ情況ヲ知レル證人ヲ有スルモノニシテ之ヲ返還スルヲ要スル者ト取戻シタル金ヲ盜難者ニ返還シタル後チ殘金ヲ生シタル時ハ「ヨコスカ」市ノ罹災者救助資金トシテ積立ニ置キ他日ニ要求者顯ハレタル時殘金救濟範圍ニ於テ之ヲ前記要求者ニ返附スルヲ得ヘシ金取戻ニ關スル請願ノ理由無キ支那當局人カ該金ヲ返還スル義務ヲ有スル事、理由ハ前揭理由ノ外尚ヨコスカ事件ニ對シテ支那領事モ其罪ヲ分擔セサルヘカラサル二論據ヲ置クヲ得ヘシ盖シ支那人カ如キ過激派ト親密ナル關係ヲ有スル者ニ對シテハ過激派殘虐ヲ斯ル程度ニ達セサリシナレハナリ隨テ市ヲ以テ金ニ殘リ九百二十年七月二十三日

第五十一號

會長代理、エ、ワレリエフスキー、

書記　エメリヤーノフ、

5-1457

0246

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

附屬書類添附

秘受10293號

政務局第一課

大正九年八月拾四日接受 政務局 第一課

機密第五五號

大正九年八月二日

在北京

大使館一等書記官 花岡止郎

外務大臣子爵 内田康哉殿

支那側カ過激派ノ金塊ヲ受領セル件

本件ニ關シ七月二十七日附拙信機密第四八號ヲ以テ其ノ請願原文写二通及譯文一通添附及報告置候處今般右譯文写出来候ニ付更ニ二通追送候條御査閲成度此段申進候 敬具

外務省

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

日本陸軍民事部宛

黒龍江岸尼市ノ委員（ポル・モーサ）ヨリ

陳情書

過激派强盗團カ尼港ニ入リシ瞬間ヨリ該地撤退ノ其最後ノ日迄
役所ノ組織的機関ハ良民ニ対シ掠奪ヲ行ヒ又之レヲ殺戮セリ
其第一着ニ掠奪セラレシ者ハ「ミルレル」「リユーリ」「アツケルマン」其他ノ人々ナリ
過激派ハ常ニ現金（金塊砂金等）金銀細工及貴重毛皮等ヲ掠
奪セリ金銀細工ノ一部ハ之ヲ官立冶金所ニテ溶解シ以テ國
立銀行ノ金庫ニ保管セル公隊備金ニ合併セリ、三月十二日以後露
國人ヨリ掠奪セル貴重品ニ日本人ノモノモ加ヒタリ即チ前陸運集会
所ノ隣ノ建物ニ位置セル日本憲兵隊本部ノ金庫及「ペエス島田」ノ
地所内ニアリシ日本領事館ノ金庫ハ破壊掠奪セラレタリ過激派ノ
語ニ依レハ各金庫ヨリ現金及金細工品ヲ取リ去リ「ペエス島田」及ビ
領事館ノ屋敷内ニハ精金機械サヘ設ケラレ金事跡ヨリ撤飛セル金ヲ
採取スル目的ニテ土ヲ洗滌シ居タリ此機械ハ約一ヶ月働キ之レヨリ獲
タル金ハコムニーサール「オツエウイリ」ニ渡サレタリト此点ニ関シ経理局ノ出
納係「ゲ、ゲ、ミハイリッシ」ノ證言ニ依レバ官設採金所支配人「リコロフス
キー」ニ金約四布度渡サレタリト、幾布度ノ金カ洗練セラレタリヤ其体
的ニ確實ナラサルモ推測及風說ニ依レバ約十布度ハ洗ハレタルモノト思ル
此外總テノ残サレタル日本人ノ家ニ在ル貴重品ハ掠奪セラレ此等ノ一
部ハ同ジク金棒ニ鑄返ヘラレタリ結局幾何ノ金カ過激派ヤ其
頭袖等ノ手ニ取ラレタリシヤハ今日迄說明シ得ス二残サレタリ何故ナレハ
此等ノ頭袖ハ関係者及此貴金属ノ事ヲ知ルモノハ悉ク之ヲ殺セシナリ
國立銀行支配人「エヌ、エヌ、ムルズイク」、採金所會計「ウオローズビン」会計係
「オイビン」冶金局支配人「ソコロフスキー」鑑定人「ムニユーリン」及他ノ若干者ノ
如キハ有力ナル證人タルヘキモノハ総テ生存シアラス掠奪シ且ツ鑄返

陸軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

タル金ノ其後ノ成行キ次ノ如シ共産的状態ニ入ラシメ又従テ若者ヲ働カシムル為メ過激派ハ全然個人ノ商業ヲ禁スルニ決セシカ支那人モ其中ニ含マレアリタリ、然ルニ過激派カ「ノンスト」「ムエーリン」「プレムキン」「快清會」等露國商店ヨリ取リタル物資カ不足ナルノミナラス支那商店閉鎖ハ過激派ニ対スル支那居住民ノ親善ヲ破壊スル恐アルヲ以テ過激派ノ領袖者柚葉ハ銀行ノ金庫ニ保管シアル金拂ヒヲ以テ支那人ノ物資ヲ悉ク購入スルニ決セリ但シ此金ハ掠奪又ハ殺害セラレタル個人ノモノヲ混シタルモノニテ即チ鮮血ノ跟ヲ附着スルモノナリ支那商人カ其貨物ノ代トシテ受取リタル純金十四布度アリ此数ハ国立銀行ノ計算係「フェオドシト・ソリイ・ナハバロフ」及「ピョートル・ニコライウェナ・コロレフ」之ヲ證言シ得ヘシ前記人々ハ尚ホ次ノ事ヲ證言シ得此十四布度ノ金ノ外ニ同シク国立銀行ノ金庫ヨリ別ニ二布度二〇「フント」ノ金ヲ尾巻ヨリ物資購入ノ為ニ派遣スル購買委員カ哈爾賓露亜銀行ヨリ信用貸シヲ受タルコトヲ斡旋シ世貴フカ為メニ支那領事ニ渡サレタリ其他「ニコラエフスク」及浦潮ニ於テ噂アリ曰ク浦潮上海及日本ニ物資購入ノタメ派遣ヲ命セラレタル代表者ハ金十布度ヲ取出シ上海ニ為替スルタメ之ヲ支那領事ニ引渡セリトカ、本件ニ関シテハ「ゴンチャロフ」ト共ニ購入ノ為ニ派遣セラレタル在「アレクセーフスコエ」村ノ「プロンゲ」ガウリレンコ」ヲ審問スルノ必要アリ噂ニ依ルニ同人ハ滊船「エリツシ」號ヲ以テ「ニコラエフスク」ニ帰来セリト、過激派カ財物ヲ掠奪シ市街ヲ破壊シ逃走シタル今日ニ於テ過激派ノ残セシ荒廃地ニ新タニ「ニコラエフスク」代表者会ト称スル共同団体ヲ組織セリ吾人代表者ハ日本司令部ニ向ツテ歎願スル處ハ支那商人兄ニ支那領事ヨリ其有スル金「十六プード」二十「フント」ヲ露国住民ノ正當ナル代表者タル吾人ニ引渡サシムルコトニ付キ援助ヲ受ケントスルニアリ前記歎願ノ理由ハ「ニコラエフスク」過激派ハ国際慣例ノ見地ヨリ

陸軍

5-1457
0249
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

決シテ正當ナル地方官憲ト見做スヲ得スト云フニアリ彼等ハ單ニ逃ニ遁キス右ハ支那領事及支那商人ノ憂心知スル處ニテ曰本居留民全部及收容セラレタル露國人全部カ殺害セラレタル上ハ特ニ其ノ然ルヲ認メ得ヘシ斯ル官憲トハ如何ナル契約ヲモ締結スルヲ得サルハ勿論十リ若シ其ニモ拘ラス彼等ト契約シ各種ノ委託ヲ受ケタリトセハ更ニ到際法及到際道徳ノ見地ヨリ凡テ斯ル契約ハ明カニ不當ノモノト認メサルヘカラス、過激派ト支那領事及支那商人トノ間ニ締結セル契約ノ本法ナルコトハ過激派カ既ニ前述セル如ク支払ヒ當テタル金ノ一部ハ露到良民及日本人ヨリ掠奪シタルモノニ係リ盜當タルハ明カナルモノトシテ、如何ナル場合ニ於テモ必ス勤勞及物品代トシテ受領スヘカラサルモノナルニ鑑ミルモ之レヲ知ルヲ得ヘシ、本件金ハ最初ノ所有者即チ露到及日本人ニシテ證據ヲ提出シタル者若シクハ掠奪ノ情況ヲ知レル証人ヲ有スルモノニ之ヲ返還スルヲ要スル若シ取戻シタル金ヲ盜難者ニ返還シタル後チ殘金ヲ生シタル時ハ「ニコラエフスク」市ノ罹災者救助資金トシテ積立テ置キ他日ニ要求者顯ハレタル時ハ該殘金數量ノ範圍ニ於テ之ヲ前記要求者ニ返附スルヲ得ヘシ金取戻ニ關スル請願ノ理由充タス支那領事カ該金ヲ返還スル義務ヲ有スル事、理由ハ前揭理由ノ外尚ニコラエフスク」事件ニ對シテ支那領事モ其罪ヲ分擔セサルヘカラサル二論據ヲ置クヲ得ヘシ蓋シ支那欽事ニシテニコラエフスク」避難民ノ云フカ如キ過激派ト親密ナル關係ヲ有セリセハ過激派殘虐ヲ斯ル程度ニ達セサリシナルヘク隨テ市ヲ見全ニ殘リ名ヘキカ故ナリ、

九百二十年七月二十三日

第五十一號

会長代理、エ、ワレリエフスキー、

書記　エメリヤーノフ、

5-1457

0250

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

日本陸軍民事部宛

黒龍江岸尼市　委員「シボルノモーケー」ヨリ

陳情書

過激派強盗團刀尼港ニ入リシ瞬間ヨリ該地撤退ノ昨日迄彼等後所ノ組織的機関ハ良民ニ對シ掠奪ヲ行ヒ又之ヲ殺戮セリ其筆ニ着ニ掠奪セラレシ者ハコミル長「リューリ」「アツケルマン」其他人ナリ過激派ハ常ニ現金（金塊砂金等）金銀細工及貴重毛皮等ヲ掠奪セリ、金銀細工ノ一部ハ之ヲ官立治金所ニテ溶解シ以テ國立銀行ノ金庫ニ保管セル公稼備金合体セリ三月十二日以後露國人ヨリ掠奪セル貴重品ニ日本人ノモノヲ加ヘタリ即チ前陸軍集會所ノ隣ノ建物ニ位置セル日本憲兵隊本部ノ金庫及「ペヌ」島田ノ地所内ニアリシ日本領事館ノ金庫ハ破壊掠奪セラレタリ過激派ノ語ニ依レハ各金庫ヨリ現金及金細工品ヲ取リ去レリ「ペヌ」島田」及ビ領事館ノ屋敷ハ精金機械サヘ設ケラレ火事跡ヨリ撤飛セル金ヲ採取スル目的ニテ土ヲ洗滌シ居タリ此ノ機械ハ約一ケ月働キ通ヨリ獲タル金ハ「コムミーサール」「オツエクイリ」ニ渡サレタリト此ノ莫ニ關シ経理局ノ出納係「ゲ、ミハイリク」ノ證言ニ依レバ官設採金所支配人「リコロフスキー」ニ金約四布度渡サレタリト、幾布度ノ金ガ洗練セラレタリヤ実体的ニ確實ナラサルモ推測及風設ニ依レバ約十布度ハ洗ハレタルモノト思ル此ノ外総テノ殺サレタル日本人ノ家ニ在ル貴重品ハ掠奪セラレ此等ノ一部ハ同シク金棒ニ鋳変ヘラレタリ結局幾何ノ金ガ過激派ヤ其領袖等ノ手ニ取ラレタリシヤハ今日迄説明シ得スニ残サレタル何故ナレバ此等ノ領袖ハ關係者及此貴金屬ノ事ヲ知ルモノハ悉ク之ヲ殺シタレハナリ

5-1457

025

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

國立銀行支配人「エヌエヘムルズイク」検察官「ウオローズビン」出納係「グービン」冶金局支配人「コンコロフスキー」鑑定人「チュトリン」及他ノ若干ノ者ノ如キ有力ナル證人タルヘキモノハ總テ生存シアラス 採集シ且ツ鑄変ヘタル金ノ其後ノ成行キ次ノ如シ

共産的狀態ニ入ラレメ又總テノ者ヲ働カレムル爲メ過激派ハ全然個人ノ商業ヲ禁スルニ決セレガ支那人モ其中ニ含マレアリタリ然ルニ過激派カ「クンスト」「ケーリン」「ブレムキン」「協済金」等露國商店ヨリ取リタル物資ガ不足ナルノミナラス支那商店閉鎖ハ過激派ニ対スル支那居住民ノ親善ヲ破壊スル恐レアルヲ以テ過激派ノ領袖等ハ銀行ノ金庫ニ保管シアル金札ヒヲ以テ支那人ノ物資ヲ悉ク購入スルニ決セリ 但シ此ノ金ハ捺奪又ハ殺害セラレタル個人ノモノヲ混シタルモノニシテ即チ鮮血ノ跟ヲ附着スルモノナリ 支那商人ガ其貨物ノ代トシテ受取リタル純金十四布度アリ此数ハ露支銀行ノ計算係ヨエオドル、ドニーンウイチ、ハバロフ」及「ピョートル、ニコライウェチ、コロレフ」ノ証言シ得ヘシ前記ノ人々ハ南ホツ事ヲ證言シ得此十四布度ノ金ノ外ニ同シク露支銀行ノ金庫ヨリ別ニ布度ニ「コント」ノ金ヲ花港ヨリ貨カ哈爾賓露亜銀行ヨリ信用貸シヲ受ケルコトヲ斡旋シ黄フカ爲メニ支那領事ニ渡サレタリ 其他「ニコライフスク」及浦潮ニ於ケル噂アリヨク浦潮上海及日本ニ物資購入ノタメ派遣ヲ命セラレタル代表者ハ金「十布度」ヲ取出シ上海ニ爲替スルタメメヲ支那領事ニ引渡セリトカ、本件ニ関シテハ「ゴンチヤロフ」ト共ニ購入ノ爲ニ派遣セラレタル、在「アレクセーフスコエ村(プロンゲ)「ガウリレンコ」ヲ審問スルノ必要アリ噂ニ依ルニ同人ハ汽船ヨリワン」辺ヲ以テニコラエフスク」ニ皈来セリト

5-1457

0252

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

過激派ガ財物ヲ掠奪シ市街ヲ破壊シ逸走セルタル今日ニ於テ
過激派ノ残セシ荒廃地ニ新タニ「ココエフスク」代表者會ト
称スル共同團体ヲ組織セリ吾人代表者ハ日本司令官部ニ
向ツテ歎願スル處ハ支那商人並ニ支那領事ヨリ其有ス
ル金「十六プード」ニ付キ援助ヲ受ケントスレニアリ前記
タル吾人ニ引渡サレムルヲ「過激派ハ國際慣例ノ見地ヨリ
歎願ノ理由ハ「ココエフスク」ニ露國住民僅ノ正當ナル代表者
決レテ正當ナル地方官憲ト見做スヲ得ストセラニアリ彼等
ハ單ニ個人ニ過キス右ハ支那領事及支那商人ノ忝知スル處
ニテ日本居留民全部及收容セラレタル露國人全部ガ
殺害セラレタル上ハ特ニ其ノ然ルヲ認メ得ベシ斯ル官憲トハ
如何ナル契約ヲモ締結スルヲ得サルハ勿論ナリ若シ其レニモ
拘ハラス彼等ト契約シ各種ノ委託ヲ受ケタリトセハ更ニ國際

法及國際道徳ノ見地ヨリ凡テ斯ル契約ハ明カニ不當ノ
モノト認メザルヘカラズ過激派ト支那領事及支那商人
トノ間ニ締結セル契約ノ不法ナルコトハ過激派カ既ニ前述
セル如ク支払ヒニ當テタル金ノ一部ハ露國良民及日本人ヨリ
掠奪シタルモノニ係リ盗品タルハ明カナルモノトシテ如何ナル場合
ニ於テモ必ス勤労及物品代トシテ受領スカラサルモノナルニ鑑
シモ之ヲ知ルヲ得ヘシ仍テ最初ノ所有者即チ露
國及日本人ニシテ證據ヲ提示シ得ヘキ者若シクハ掠奪ノ情況
ヲ知レル證人ヲ有スル者ニ返還スルヲ要ス若シ取戻シ
タル金ヲ盗難者ニ返還スルニ當リ生シタル殊ハ一般ニ
ニラエフスク市罹災者救助資金トシテ積立テ置キ他日ニ要
ス者ニ還附スルヲ得ヘシ殊ニ殘金取戻ニ關スル請願ノ理由並支那

5-1457

0253

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

領事支那商人カ該金ヲ返還スル義務ヲ有スル事ノ理由ハ
記理由ナル外尚「ココラエフスキー」事件ニ對シテハ支那領事
其罪ヲ分擔セザルヘカラザル論據ヲ置クヲ得ヘシ蓋シ支那
領事ニシテ「ニコラエフスキー」避難民ノ如キ過激派
ノ親密ナル關係ナカリセハ過激派殘黨ヲ斯ル程度ニ迄
セサリシナルヘク隨テ市ヲ完全ニ殘クタルヘキカ故ナリ

千九百二十年七月二十三日

第五十一號

會長代理　ヱ、ワシリエフスキー、

書記　エメリヤーノフ、

5-1457

0254

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

機密第13664號

付属書類添付

大正九年十月十四日接受　政務局　第二課

機密第一〇三號

大正九年九月二十九日

在尼港

大使館一等書記官花岡止一郎

（要旨付ス）

外務大臣伯爵内田康哉殿

支那砲艦保管金塊ニ關スル件

先日迫當地ニ碇泊セル支那砲艦中ニ保管セル、支那商人ノ金塊ハ今春「トリヤピーツイン」一派カ當市ニ於テ銀行及一般市民ノ所有品ヲ掠奪シタルモノナリトテ當地住民ヨリ其ノ取戻ヲ訴出タルコトハ七月二十七日附私信機密第四八号報告ノ通ニ有之而シテ右訴出ヲ本官ヨリ支那領事ニ移牒シ差支ナキ旨ハ貴電第四四号ノ次テ御回訓ニ接シ居リ候ヘ共其ノ後砲撃事件共同調査ノ際ト相成リ本件ハ支那領事ト過激派トノ親密ナル關係アリシ証據資料トシテ一括共同調査ノ際提出方有利ナリト存シ今般同調査ノ際初メテ支那側ニ發表シ旦公文ヲ以テ支那領事ニ移牒セルモ事件其ノモノハ張領事カ尼港ニ於テ惹起シタルモノ故砲撃事件共同判決トハ切離シ別ニ本官ト王鴻年氏ト協議ノ上同氏ノ希望ニ基キ本問題ハ一方支那領事及在尼港支那商人代表者他方在尼港露國住民代表者及日本居留民代表者トノ間ニ協定セシムルコトヽシ本月二十日清水領事立會ノ上右會合ヲ為サシメタル所別添甲本件ニ關スル支那領事ノ本官ニ対スル回答文ノ内容ト相違シ事實過

外務省

5-1457

0255

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

激派ノ大勢略セルモノモアル如ク去リトテ支那領事ハ体面上之ヲ認ムル能ハス終ニ危殆窮民ニ対スル恤救トシテ右金塊ノ一部ヲ提供セルモ露国人側ハ其ノ半額ヲ要求シ折合ハス結局別添(一)ノ如ク在浦潮斯徳領事團ノ決定ニ委スコトニ協定シ該金塊ハ汽船「イーセン」ニ依リ哈府ニ送リ(拙電第八七号前段参照)同地ヨリ鉄路浦潮ニ送致スルコトトナリ當方ヨリハ別添(二)ノ如キ証明書ヲ支那領事ニ與ヘタル次テ近々右金塊ハ浦潮ニ到着スヘク其ノ上ハ同地領事團ノ判定ヲ待ツヘク尾澤住民代表者トシテハ別添(三)ノ如ク辯護士ノ「プロトポポフ」出張スヘキニ依リ本信附属書及右代表者ノ申出御参照ノ上可然援助方在浦潮菊地総領事ニ御訓令相成度尚ホ支那側ノ方ニ於テハ本官ヨリ王鴻年氏ニ對シ浦潮到着ノ上ハ張領事ヲ伴ヒ松平政務部長ニ本件ノ顛末説明セラルル様依頼致シ同氏モ承諾ノ上出發シタルヲ以テ既ニ松平政務部長ニ於テ御承知ノコト、存候ヘ共為念申進候　敬具

本信写送附先

在浦潮　松平政務部長

菊地総領事

5-1457

0256

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

壹千九百弐拾年九月拾八日第二九七號附ヲ以テ支那領事ヨリ
花岡書記官ニ宛テタル書簡ノ一節

販賣商品ニ対スル金塊支払問題ニ関シテハ支那商人及執行委員会間ニ於テ相互協定成立シ本官ハ之レニ干渉スル處ナカリキ蓋シ支那商人ハ執行委員會発行ノ新紙幣ヲ認メス随ッテ之レヲ受領スルコトヲ欲セサリシヲ以テ執行委員会ハ金塊ヲ以テ支拂フコトヽナレリ

本官ノ知ル處ニ依レハ支那商人ハ売却商品代金トシテ露國々立銀行支店ヨリ金塊ヲ受領セリ

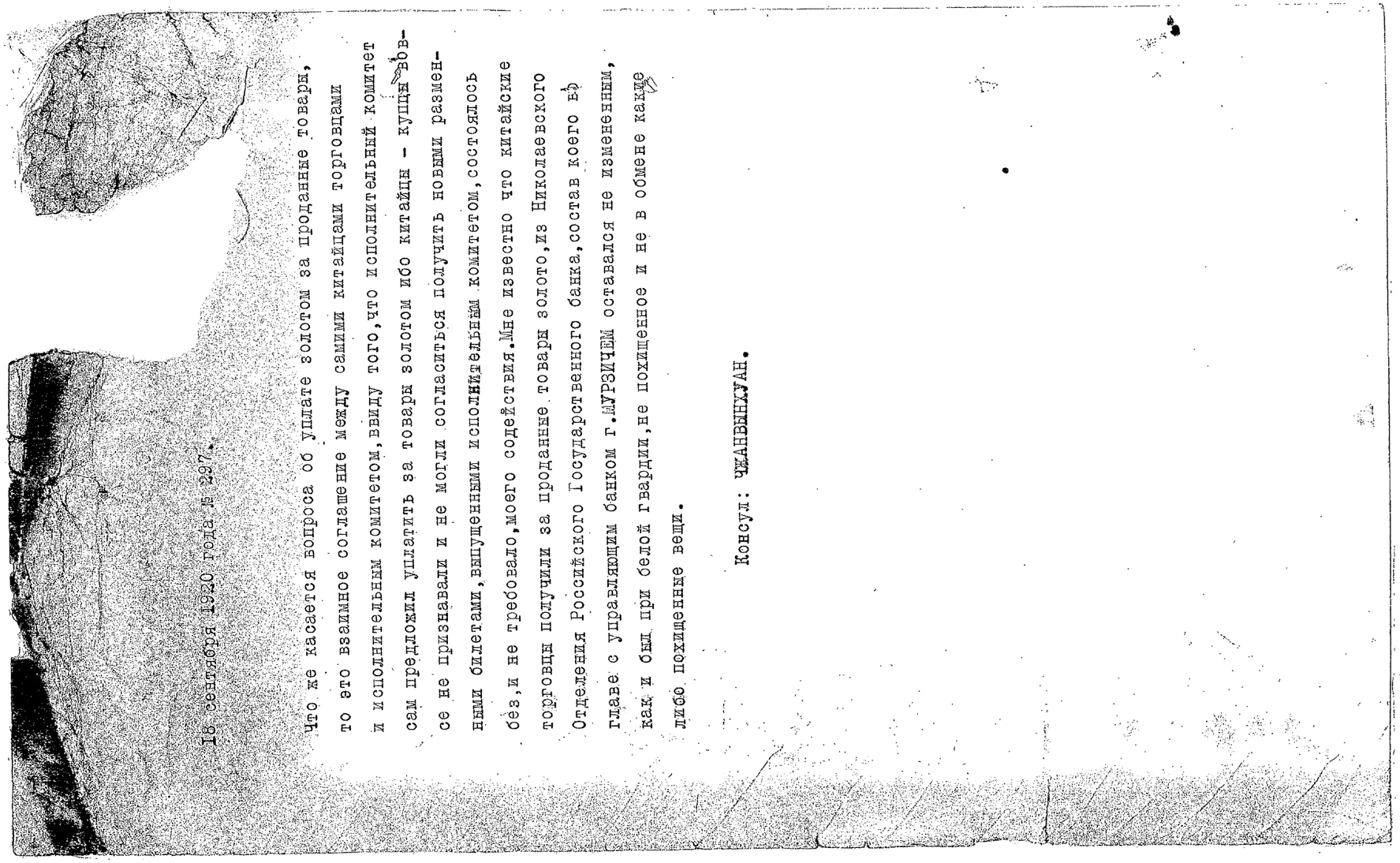
同銀行支那南店長「ムルジム」ハ白軍ノ時ヨリ引続キ残留セルモノニシテ金塊ハ盗ミタル者ニアラス又盗ミタル物品ノ代ハリニ得タル金ニモアラス

5-1457
0257
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

5-1457

8520

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp



16 сентября 1920 года № 297.

Что же касается вопроса об уплате золотом за проданные товары, то это взаимное соглашение между самими китайцами торговцами и исполнительным комитетом, ввиду того, что исполнительный комитет сам предложил уплатить за товары золотом ибо китайцы - купцы вовсе не признавали и не могли согласиться получить новыми разменными билетами, выпущенными исполнительным комитетом, состоялось без, и не требовало, моего содействия. Мне известно что китайские торговцы получили за проданные товары золото, из Николаевского Отделения Российского Государственного банка, состав коего был в главе с управляющим банком г. ГУРЗИЧЕМ оставался не измененным, как и был при белой гвардии, не похищенное и не в обмене какие либо похищенные вещи.

Консул: ЧЖАНВЕНЧУАН.

乙

調書

壹千九百三十年九月二十日支那領事「ムヤンウインフワン」薩哈嗹洲會全權「ヨシスタンム二」「アレクサンドロウイチ」「エメリヤーノフ」支那商人團代表者「ツンライヒン」「クンライムン」「果ヒンツン」「パウツンヂン」「スイ」「ニコラエウフスク」市漁業組合代表者「ユーゲ、ロマノーウイチ、ルビンシテーン」及「ニコラエウフスク」市日本居留民代表者「ペヨートル、ニコラエウイチ」嶋田ハ並「ニコラエフスク」日本領事清水氏立會ニ於テ非公式協議会ヲ開キ支那砲艦内ニ保存セル支那領事證明ノ係ハル千九百二十年四月及五月中支那商人販賣ノ商品代金トシテ受領セル金塊九布度「三十七」「フント」「四十四」「ゾロトニク」五十「ドーリヤ」ノ所屬問題ヲ討議シ一同左ノ通リ合意セリ

本件金塊ノ所有權問題ハ補潮領事團ノ決定ニ委ス本問題最終ノ解決迄本件金塊ハ在補潮支那總領事館ニ於テ保管ス而シテ該金子送達ハ在「ニコラエウフスク」支那領事ニ於テ之ヲ爲スモノトス

支那領事　「ムヤンウインフワン」

薩哈嗹洲会全權　「エメリヤーノフ」

漁業組合代表者　「イ、ルビンシテン」

ペ　嶋田

前記協議ニ参加セル諸氏ノ署名ハ壹千九百二十年九月二十日本官立会ノ上之ヲ爲シタルコトヲ證明ス

5-1457

0259

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

五尼港日本領事
靖水
八百一

5-1457

0260

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

日本公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

B26

ПРОТОКОЛЪ

Частнаго совѣщанія Китайскаго Консула Чжан-Вын-Хуанъ, Уполномоченнаго Сахалинскаго Областного съѣзда Константина Александровича Емельянова, представителей Китайскаго купечества Тун-Лай-Хинъ, Кун-Тай-Чинъ, По-Хин-Дунъ, Хуа-Тун-Гун-Сы, Предсѣдателя совѣта Общества рыбопромышленниковъ въ г. Николаевскѣ Іуды Романовича Рубинштейнъ и представителя Японской Коллоніи въ городѣ Николаевскѣ Петра Николаевича Симада, въ присутствіи Японскаго Консула въ г. Николаевскѣ Симидзу

20 сентября 1920 года.

Обсудивъ вопросъ о принадлежности находящагося на китайской кононеркѣ золота въ количествѣ, по удостовѣренію Китайскаго Консула, ДЕВЯТЬ ПУДОВЪ ТРИДЦАТЬ СЕМЬ ФУНТОВЪ СОРОКЪ ЧЕТЫРЕ ЗОЛОТНИКА ПЯТЬДЕСЯТЪ СЕМЬ ДОЛЕЙ полученнаго китайскими торговцами за товары проданные въ апрѣлѣ и маѣ мѣсяцахъ 1920 года Коммисаріатъ Продовольствія и Торговли Николаевскаго округа, мы нижеподписавшіеся согласились единогласно въ томъ, что вопросъ о томъ что кому должно принадлежать право собственности на вышеуказанное золото передать на разрѣшеніе Консульскаго Корпуса въ г. Владивостокѣ съ тѣмъ, чтобы до окончательнаго рѣшенія вопроса о правѣ собственности, золото должно находиться въ Китайскомъ Генеральномъ Консульствѣ во Владивостокѣ на храненіи, куда, для храненія, оно должно быть доставлено Китайскимъ консуломъ въ г. Николаевскѣ.

Китайскій Консулъ Уполномоченный Сахалинскаго областного Съѣзда Китайскій купецъ — Предсѣдатель Общества Рыбопромышленниковъ 東泰興公太行 宝芸本華通公司

Подписи лицъ, участвовавшихъ въ частномъ совѣщаніи учинены въ моемъ присутствіи 20 сентября 1920 года, что и удостовѣряю.

Японскій ИМПЕРАТОРСКІЙ Консулъ въ г. Николаевскѣ

5-14157

乙

調書

千九百二十年九月二十日支那領事「ムヤンウイーンフウン」
薩哈嗹洲會全權「ミスタンムン」「アレクサンドロウイッチ」「エメ
リヤーノフ」支那商人團代表者「ツンデイヒン」「グンテイムン」東
ヒンツン」「パウツンヂンスイ」「ニラエウフスク」市漁業組合代表
者「チヂノロマノーウイッチ、ルビンシテーン」及「ニラエウフスク」市日
本居留民代表者「ペーチヨートル、ニラエウイッチ」嶋田元「ニラエ
フスク」日本領事清水氏立會ニ於テ非公式協議會ヲ開キ
支那砲艦修理ニ保存セル支那領事證明ニ係ル千九百二十
年四月及五月中支那商人販賣ノ商品代金トシテ受領
セル金ノ總量九封度「ミキヒツフユ」「四十四「ゾロトニク」五十「ドーリ」
ニ關スル問題ヲ討議シ左記ノ通リ合意セリ
本件金塊ノ所有權問題ハ清國領事團ノ決定ニ委ス本
問題最終的解決迄本件金塊ハ在浦潮支那總領事館
ニ於テ保管シ而シテ該金ノ送達ハ在「ニラエウフスク」支那
領事ニ於テ之ヲ爲スモノトス

支那領事「ムヤンウイーンフウン」
薩哈嗹洲会全權「エメリヤーノフ」
漁業組合代表者「イ、ルビンシテン」
ペ 嶋田

前記協議ニ參加セル諸氏ノ署名ハ千九百二十年九月
某日本領事立会ノ上之ヲ爲シタルコトヲ證明ス

5-1457
0262
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

五尼港 日本領事 清水八五一

5-1457

0263

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

КОПИЯ.

П Р О Т О К О Л .

Частного Совещания Китайского Консула ЧЖАН-ВЫН-ХУАН, Уполномоченного Сахалинского Областного С"езда Константина Александровича ЕМЕЛЬЯНОВА, представителей Китайского купечества ТУН-ЛАЙ-ХИН, КУН-ТАЙ-ЧИН, ПО-ХИН-ДУН, ХАУ-ТУН-ГУН, СЫ, Председателя Совета Общества рыбопромышленников в г.Николаевске Иуды Романовича Рубинштейна и представителя Японской Колонии в городе Николаевске Петра Николаевича СИМАДА, в присутствии Японского Консула в г.Николаевске СИМИДЗУ

20 сентября 1920 года.

Обсудив вопрос о принадлежности находящагося на китайской кононерке золота в количестве, по удостоверению Китайского Консула, ДЕВЯТЬ ПУДОВ ТРИДЦАТЬ СЕМЬ ФУНТОВ СОРОК ЧЕТЫРЕ ЗОЛОТНИКА ПЯТЬДЕСЯТ СЕМЬ ДОЛЕЙ полученного китайскими торговцами за товары проданные в апреле и мае месяцах 1920 года Комиссариату Продовольствия и Торговли Николаевского округа, мы нижеподписавшиеся согласились единогласно в том, что вопрос о том кому должно принадлежать право собственности на вышеуказанное золото передать на разрешение Консульского Корпуса в г.Владивостоке с тем, чтобы до окончательного решения вопроса о праве собственности, золото должно находится в Китайском Генеральном Консульстве во Владивостоке на хранении, куда, для хранения, оно должно быть доставлено Китайским Консулом в г.Николаевске.-

Подписи: Китайский Консул ЧЖАНВЫНХУАН, Уполномоченный Сахалинского Областного С"езда ЕМЕЛЬЯНОВ, Председатель Общества Рыбопромышленников И.РУБИНШТЕЙН, П.СИМАДА.

Подписи лиц участвовавших в частном совещании учинены в моем присутствии 20 сентября 1920 года, что и удостоверяю.

Японский ИМПЕРАТОРСКИЙ Консул в г.Николаевске

Я.С И М И Д З У.

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
0826
5-1457

занных выше соображений основывается и на том бесспорном положении, что в Николаевских событиях известная доля вины падает и на Китайского Консула.-Не будь того дружелюбного отношения со стороны Китайского Консула к большевикам, о котором говорят все уцелевшие Николаевцы, разнузданность большевиков не достигла бы той степени до которой она дошла, и город, всего вероятнее, уцелел бы.-

23 -го июля 1920 года.

Председатель Собрания: Васильевский.-

Секретарь: Емельянов.-

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
0265
5-1457

номоченные, обращаемся к Штабу Японского Командования с просьбой о возможном содействии в передаче китайскими торговцами и китайским консулом имеющагося у них золота в количестве 16 пудов 20 фун. законным представителям русского населения в лице нас, уполномоченных.

Основанием указанной просьбы служит то, что Николаевские большевики, с точки зрения международных обычаев, ни в коем случае не могут быть признаны законной местной властью. Они были только разнузданной шайкой бандитов и это должно быть ясным и для Китайского Консула и для китайских торговцев, особенно после поголовного избиения мирного японского населения и всех заключенных русских. Естественно, что с такою властью нельзя было заключить никаких сделок, и, если такие сделки, тем не менее, заключались и принимались различные поручения то теперь с точки зрения международного права и международной этики, все эти сделки должны быть признаны явно незаконными.

Противозаконность сделок, заключенных между главными большевиков с одной стороны и Китайским Консулом, совместно с китайскими торговцами, с другой, вытекает из того, соображения, что как было сказано выше, золото, которым расплачивались большевики, было частью награблено от мирных русских граждан и граждан японских поданных и потому, как заведомо краденное, ни в коем случае не должно быть принимаемо в уплату за какие бы то ни было услуги или товары.-

Золото это должно быть возвращено его первоначальным собственникам, т.е. тем русским и японским гражданам, кои могут представить доказательство или обстоятельство ограбления коих дополнительно известно населению.-

Если по возвращении потерпевшим от грабежа взятого от них золота какой нибудь остаток, то таковой временно будет обращен в фонд вспомоществования вообще пострадавшему населению г. Николаевска с тем, что в случае возникновения каких либо новых притензий от лиц, ныне не находящихся здесь, они должны быть удовлетворены уже горожанами в пределах этого остатка.-

Заявляемая нами просьба о возвращении золота и обязанность Китайского Консула и китайских торговцев вернуть его, кроме ука-

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
0256
5-1457

Нет в живых таких ценных свидетелей как Управляющий Государственного Банка Н.Н.Мурзич,контролер Бороздин,кассир Губин, Управляющий Золотосплавочной Лабораторией Сокоповский,оценщик Тютрин и некоторые другие.-

Дальнейшая история награбленного и перелитого в слитки золота была следующая.Чтобы провести в жизнь коммуну и заставить работать всех,большевики решили совершенно закрыть частную торговлю,в том числе и торговлю китайцев.Но так как товаров в захваченных большевиками русских магазинах Кунста,Чурина, Еремкина,"Взаимопомощь" было недостаточно и,кроме того,закрытие китайской торговли нарушало бы дружественные отношения китайской колонии к большевикам,то главари большевизма решили купить все китайские товары,платежным же средством за товары послужило золото,хранившееся в кладовых банка,но уже смешанное с золотом ограбленных и убитых частных лиц,а потому носившееся на себе следы крови.-

Всего было взято китайскими торговцами чистого золота за свои товары 14 пудов.Эту цифру могут подтвердить счетчики Гос.Банка Федор Денисович Хабаров и Петр Николаевич Королев.-

Указанные лица могут подтвердить также,что кроме 14 пудов было взято из кладовой Гос.Банка 2 пуда 20 фун.отдельно китайским консулом в целях устройства аккредитива Харбинскими китайскими банками закупщикам продуктов,посланным из Николаевска.-

Кроме того по городу Николаевску,а также во Владивостоке циркулировали слухи,что представителями,посланными для закупок во Владивосток,Шанхай и Японию,было взято 10 пудов золота,которое,якобы,также для аккредитива на Шанхай передано Китайскому Консулу.-

По этому поводу следовало бы допросить командированного для закупок вместе с Гончаровым крестьянина села Алексеевского /Пронге/ Гавриленко,по слухам возвратившагося в Николаевск на пароходе "Эривань".В настоящее время,когда большевики, ограбив и разрушив город,раз"ехались и на оставленных ими развалинах образовалась новая общественная организация в лице Собрания Николаевских на Амуре уполномоченных,мы,упол-

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
0826
5-1457

В ГРАЖДАНСКУЮ ЧАСТЬ ПРИ ШТАБЕ ЯПОНСКОЙ АРМИИ

От Собрания Николаевских на
Амуре городских уполномоченных.

З А Я В Л Е Н И Е.-

С момента входа большевитских банд в г.Николаевск и по самый день их бегства отсюда основная система их управления выражалась в поголовном грабеже мирного зажиточного населения и в убийстве ограбленных лиц.В первую очередь были ограблены граждане Миллер,Люри,Аккерман и др.-

Большевиками забирались обыкновенно золото в сыром виде,золотые и серебрянные вещи и ценные меха.Часть золотых вещей переплавлялась в казенной лаборатории и затем присоединялась к общим запасам золота,хранящагося в кладовых Государственного Банка.-

После 12-го марта к награбленным ценностям русских присоединились ценности японских граждан:были разбиты и разграблены несгораемые ящики в японском жандармском управлении,которое помещалось в здании рядом с бывшим военным собранием,несгораемые ящики в Японском Консульстве и на участке П.Н.Симада.Из всех ящиков,по словам большевиков,были извлечены ценности в виде золота и золотых вещей.На участке П.Н.Симада и на участке Консульства были поставлены даже бутары и на них промывалась земля с пожарища,с целью, разумеется,собрать рассеянное золото;бутары работали около месяца,намытое золото сдавалось комиссару Оцевилли.-

В этот период,по показанию бухгалтера Казначейства Г.Г.Михалика, был.Управляющим казенной Золотосплавочной лаборатории Соколовским сдано золота около 4 пудов.Сколько же пудов золота фактически было намыто,но есть предположение и по слухам золота намыто около 10 пудов.-

Кроме того были ограблены ценности у всех убитых японских граждан и часть этих ценностей также была переплавлена в слитки. Сколько в конце концов,скопилось золота в руках большевиков,главарей,остается до сих пор невыясненным,так как эти главари умертвили всех,кто имел отношение и знал об этих ценностях.-

日本公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
0268
5-1457

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

0268

5-1457

этого остатка.

Заявляемая нами просьба о возвращении золота и сна[illegible] китайского консула и китайских торговцев вернуть его, кроме указанных выше соображений, основывается и на том бесспорном положении, что в Николаевских событиях известная доля вины падает и на китайского консула. Не будь того дружелюбного отношения со стороны китайского консула к большевикам, о котором говорят все уцелевшие николаевцы, разнузданность большевиков не достигла бы той степени, до которой она дошла, и город, всего вероятнее, уцелел бы.

23-го Июля 1920 года.

Председатель Собрания Е.Васильевский.

Секретарь К. Емельянов.

5-14557

00220

日本公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

5-14457

23

財団法人 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

В Гражданскую Часть [illegible]

Японской Армии.

От Собрания Николаевских на Амуре городских уполномоченных.

З А Я В Л Е Н И Е.

С момента входа большевитских банд в г. Николаевск и по самый день их бегства отсюда основная система их управления выражалась в поголовном грабеже мирнаго зажиточнаго населения и в убийстве ограбленных лиц. В первую очередь были ограблены граждане Миллер, Люри, Аккерман и др.

Большевиками забирались обыкновенно золото в сыром виде, золотыя и серебряныя вещи и ценные меха. Часть золотых вещей переплавлялась в казенной лаборатории и затем присоединялась к общим запасам золота, хранящагося в кладовых Государственнаго Банка.

После 1--го марта к награбленным ценностям русских присоединились ценности японских граждан: были разбиты и разграблены несгораемые ящики в японском жандармском управлении, которое помещалось в здании рядом с бывшим военным собранием, несгораемые ящики в Японском Консульстве и на участке П.Н.Симада. Из всех ящиков, по словам большевиков, были извлечены ценности в виде золота и золотых вещей. На участке П.Н. Симада и на участке Консульства были поставлены даже бутары и на них промывалась земля с пожарища, с целью, разумеется, собрать разсеянное золото; бутары работали около месяца, на мытое золото сдавалось комиссару Оцевилли.

В этот период, по показанию бухгалтера Казначейства Г.Г. Чихалика, было Управляющим Казенной Золотосплавочной лаборатории Соколовским сдано золото около 4 пудов. Сколько же пудов золота фактически было намыто, но есть предположение и по слухам золота было намыто окло 10 пудов.

Кроме того были ограблены ценности у всех убитых японских граждан и часть этих ценностей также была переплавлена в слитки.

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

0203

У Д О С Т О В Е Р Е Н И Е.

Я,нижеподписавшийся,Японский Консул сим удостоверяю,что Китайский Вице-Консул отправляется во Владивосток для сдачи 9 пудов 37 фунтов 44 золотников 57 долей золота Китайскому Генеральному Консулу во Владивостоке.Я прошу Японских и Русских властей на пути оказывать всякое содействие г.Китайскому Вице-Консулу.-

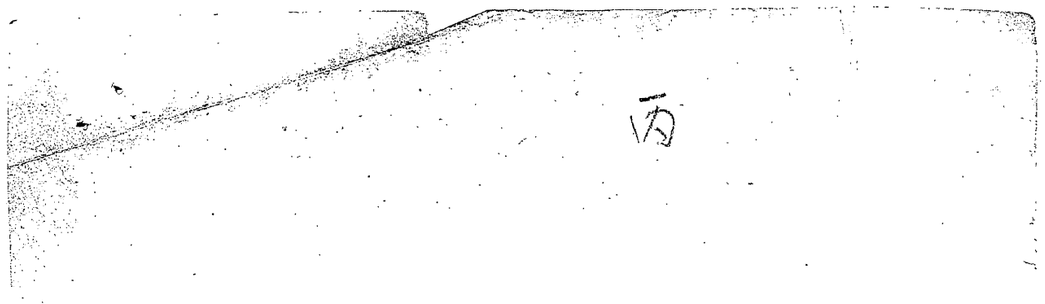
г.Николаевск на Амуре 20 сентября 1920 года.

Японский Консул:

5-1457

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

B03034

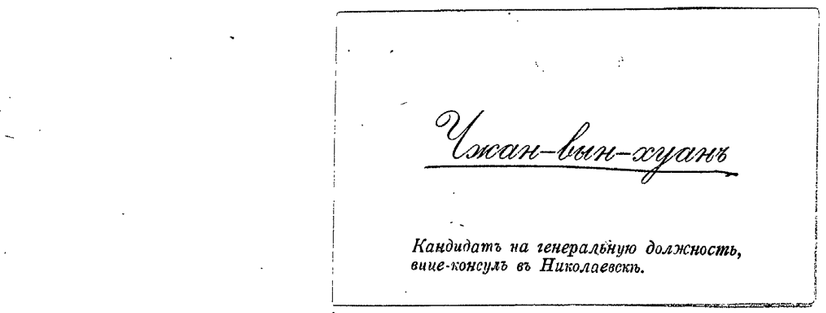


У Д О С Т О В Е Р Е Н І Е.

Я, нижеподписавшійся, Японскій Консул сим удостоверяю, что Китайскій вице-консул отправляется во Владивостокъ для сдачи 9 пудов 37фунтов 44 золотников 57 долей золота Китайскому Генеральному Консулу во Владивостоке. Я прошу Японских и Русских властей на пути оказывать всякое содействіе г. Китайскому вице Консулу.

Г. Николаевск на Амуре 20 сентября 1920 года.

Японскій Консул



5-1457

要回覧

機密

文書課長

二政

大正九年十月十四日起草

大正九年十月十六日號

機密送第二一二號

主管 政務局長

大正九年拾月拾五日接受

主任

69

大正九年拾月拾六日發送濟

在浦塩 菊池總領事

内田大臣

支那砲艦保管金塊ニ関スル件

尼港碇泊ノ支那砲艦中ニ保管セル金塊

0275

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ノ處分方ヲ貴地領事團ノ決定ニ委スヘキ旨在尼港
関係者間ニ協定シタル次第ハ花岡書記官ヨリ
貴方ヘ送附アリタル九月二十九日附本官宛仝書記官来信
機密第一〇三號写ニヨリ御承知ノ通リニ有之
就テハ右公信ノ趣旨御含ノ上右金塊処分方
可然御配慮相成度右申進候也

秘受14670號

大正九年十一月拾五日 接受 主管 歐米 第一課

七〇

大正九年十一月四日

在浦潮斯德

總領事 菊池義郎

（要旨付了）

外務大臣伯爵 水田康哉殿

支那砲艦保管金塊ニ関スル件

本件ニ関シ十月十六日附政二機密送第二二號ノ貴信ヲ以テ御訓令ノ次第敬承然ル所該貴信中御引用ニ係ル本年九月二十九日附花園書記官發本省宛機第一〇三號信ヲ査讀セルニ所ノ疑點ヲ相生シ候ニ付先ツ其疑點ドスル所ノ相

掲ゲ次ニ右ニ対シテ本官ノ採ラントスル措置ニ関スル意見
ヲ具陳シ及請訓候
前顕花岡書記官発機密第一〇三号信写ニ由レハ
該信添付ノ書類ニ由リ已ニ本件ハ浦塩領事團ノ判
定ニ移サレントスルモノカノ如ク解セラレサルニアラサルモ該信添
付書類ハ甲乙丙丁外一通リ参考文書カ列綴セラレアル
ニ止マリ争議ニ附セラレントスル事件ノ何モノタルヤヲ明示
セル文書ハ一モ存在スルコトナク従テ之ヲ以テハ争
議當事者ノ何人タルヤヲ明カニ示サルヘカラス争議
ノ判定カ當地領事團ニ移サルヘキモノトシテハ書類ハ全然
整備セラレ居ラス領事團トシテハ斯カル不整備ノ書類ヲ
以テシテハ到底何等ノ判定ヲ為スヘキ由ナシト思考セラ
ルヽニ由リ本件ハ貴信添付ノ書類ニ由リ已ニ領事

5-1457
0278
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

團ノ判定ニ移サレ居ルモノトハ思考致シ難ク候
事件ノ判定ヲ領事團ニ委移セシカ為メニハ書類整備（殊ニ事實ト年月日ト當事者トヲ明示スル書類作製ノ要アリ）
ノ要アリ。或ハ本官ニ於テ右等ノ書類ヲ作製シ之ヲ領
事團ニ提出スヘキ御主意ナルヤニ一應ハ考ヘラレサルニ
アラサルモ斯クテハ日本領事官ハ自ラ當事者一方ノ地
位ニ立ツモノト稱ス可ク從テ御主意ハ斷シテ此所ニ存セサ
ルヘキシ信セントス殘ル所書類ノ整備換言スレハ領事團
ニ對スル訴訟ノ提起ハ當事者ノ領事團出願ヲ待ツ
ノ外ナク而メ已ニ花岡書記官公信中ニモ露國辯護士
プロトポポフト及尼港在勤支那領事等ノ當地ニ向ヒ
テ出發セルコトヲ報告セラレ居ルニ由リテ之ヲ見ルトキハ當
事者ハ双方共ニ何レモ當地ニ出發シ来リ書類ヲ整
備シタル上任意ニ自ラ進ンデ領事團ノ判定ヲ仰キ度

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

申請ヲ提出スルモノト期待致シ候ニ付双方共何レモ任意當地ニ出頭シ来ルコトヲ期待セル所以ニ申ス迄モナク領事團ニ於テハ何人ニ對シテモ當地出頭ヲ命シ若クハ書類ノ提出答辯ノ提出其他ノ強要シ得サルニ由ルモノニ有之候

當事者カ當地ニ出頭シ来ルモノトシテ更ニ一二ノ疑義ヲ相生シ申候花岡書記官公信添付書類中丁號委任狀ニ關スルモノ其一ニシテ領事團ノ受諾ニ實スルモノ其二ナリ即チ丁號委任狀ノ徴スルトキハ金塊ノ還付ヲ要求スル一方ノ當事者ハ辯護士プロトポポフナルモノニ一定ノ全權ヲ委任シ居リ而メ仝辯護士カ此全權ヲ帶ヒテ當地ニ来ラントスルモノ如クナルカ該委任狀ヲ查スルニ其第一項ニ於テ當事者ハ「問題タル金塊ノ所有權問題ノ

5-1457

0288

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

解決ニ関シ浦潮領事團ニ対シ當事者ノ代表者トシテ
全權ヲ委任スル旨ヲ表ハス第二項ニ於テハ裁判所ニ
對スル訴訟行為ニ関スル全權ヲ與ヘタル所裁判所
ノ行為ニ於テハ權能ニ関スル詳細ナル規定ヲ爲シタル
控訴及上告ニ對スル權能ニ至リテハ其單ニ全
ク係ラス領事團ニ對スル全人ノ權能ヲ定メタルニ過キスシテ茫漠殆
ト捕捉スルニ苦ム次第ナルモ此点ハ暫ク好意的ニ之ヲ解
釋シ當事者ハ領事團ニ對シ何等カノ判定ヲ求メ
居ルノ判定ヲ求ムルコトニ對スル一切行為ノ全權ヲ全人
ニ附與シタルモノト解釋スルトシテモ當事者ハ全時ニ明
カニ裁判上ノ訴訟行為ニ出テントスルノ決心ヲ示シタル
而モ前述ノ通リ控訴上告ニ對スル全權能ヲ附

5-1457

028

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

與レ居ルニ徴スルトキハ當事者ノ意志ニ於テハ領事團ノ判定ノ次テ終審ノ判定トシテ尊重スルノ意志アリト認ムルコトハ到底不可能ニシテ惟フニ當事者ノ意志ニ於テハ單ニ一先ノ參考トセラルヽニ過キサル可ク不服アラハ直チニ裁判所ニ出訴シ控訴シ上告セントスルコト甚タ明白ナルカ斯クテモ領事團ハ尚本件ノ審議判定ヲ引受ク可キヤ甚タ疑ナキ能ハス又タトモ本官トシテハ若シ政ニ機密送廣ニ二歸貴信ノ御訓令ニ接シ若クハサルモノトセハ最先ニ此ノ如キ判定ハ領事團ノ威嚴ニ取リテモ之ヲ引受ク可キ限リニアラサル議論ヲ主張シタル可シト思考致候

本官ニ於テハ已ニ御訓令ニ接シ居ル次第アルニ由リ右ニ述フル所ノ如何ニ係ラス當事者ノ願出アラハ領事

5-1457

0282

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

5-1457

0283

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

國ニ於テ判定ヲ引受ケレムルニ努力改スルヲ又當地在勤支那領事ニ於テモ恐ラク本國政府ヨリ本官全様ノ訓令ニ接スヘキ筈ト思ハ者セラレ、カ故ニ此レ亦恐ラク全様ノ努力ヲ試ムルヲ期キカナレトモ其他領事ニ至リテハ本國政府ノ訓令ニ接シ居ラサルカ困リ平常ニ於テ我判事件ニモ携ハラサル彼等トシテ猶ホ本官等ト共ニ其場ヲ異ニスルモノト稱セラルル可カラス因テ當地領事團ヲ構成セル十三ヶ國領事ノ内名誉領事ノ数名ハ初メヨリ之ヲ除外スルモノトシテモ尚ホ職領事ノ二三ヶ異議ヲ鳴ヘラルル受ケ諾セサル場合殘員ノミニテ判定ヲ引受ケルノ外ナキモ此ノ場合ハ實ハ兩三ヶ國領事ノ事件ノ判定ヲ引受ケルモアルコト明亮ニシテ最早三ヶ領事團ノ判定ト稱スル可カラサルハ申スト迄モナシ

大畏上記疑義ノ諸点ニ付本官ニ於テハ差當リ御
訓令ノ御主意ヲ左記ノ通リニ解釋シ左ニ列記ノ方
針ニ依リ本件取扱ヲ進行（セントス）度心得ニ有之若シ
左記諸項ノ内御訓令ノ御主旨ト合致セサルモノモ有之
候ハヾ重ネテ御訓令相煩ハシ候様致度希望ニ堪
ヘス候

一、本件審理ノ開始ハ當事者（若クハ其代理者）
以下之ニ倣フ）ヨリ右浦潮領事團ニ對シ其判
定ヲ仰キ度由請ノ提起ヲ待ツノ要アリ

一、審理ハ當事者双方ノ當地出頭ヲ待チテ初メテ
之ヲ開始シ得可シ

一、訴ノ受理ニ先チ當事者ニ對シテハ當事者双方
共領事團ノ判定ヲ以テ終審ト為シ絶對ニ其

5-1457
0284
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

判定ニ服従スヘク判定ニ對シ再審ヲ求メ其ノ裁判上ノ訴訟行為ニ出テサルコトヲ誓言スルコトヲ要ス但シ當事者カ右誓言ヲ為スヲ試ミンコトヲ領事團ニ對シテハ當事者ノ判定申請ヲ諾セシムルニ努力スヘシ

一右努力ニ係ハラス領事團員中判定ノ召受ニ異議ヲ挟ムモノアルトキハ特ニ不都合ナキ限リ残員ノミニテ換言スレハ特定ノ領事ヲ引受クルコトヘスヘレ國ニ於テ判定

右及請訓候敬具

5-1457

0285

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

(一) 争議[illegible]指定ニ関スル事件ノ詳細ハ不明ナルモ 日[illegible]
尼港住民総代ヨリ在尼港民事部ニ提出セシ要求ヲ見ルニ

(二) 争議当事者ハ (イ) 尼港住民総代 ― プロトポポフ代表ス。
(ロ) 在尼港大都商人総代 ― 領事代表ニテ参加セシ。

(三) 当事者ノ任ニ息ム気ヲ待スベシ。

(四) 御申越ノ通リ領事ノ圏ハ利益ヲ統一セシメントスルニ在ルモ
既ニ尼港ニ於テ大都側ハ或程度ミ迄[illegible]大都ノ意アリテ
露人側(日本人側ハ島田元太郎等)トノ間ニ合意ニ干シテ
折合ヒニテ沖ノ[illegible]通達シテ居ルモノナルヲ以テ大都商人側ノ
協議仲裁モ和解ノ望ミモアリ。

尚ホ在浦潮大都領事館[illegible]追テ尼港派副領事
ノ移牒要領ハ追テ通知ス

機密

花宮書記官

要再閲

文書課長 文書課長検印

大正九年十二月四日接受 八

大正九年十二月九日起草
同 年 月 六日附

政一 機密送第二六號

別紙

大正九年十二月六日發送濟

主任 欧米局第一課

主管 欧米局長

要目付了

在浦潮総領事

内田大臣

支那砲艦保管金塊ニ関スル件

本件ニ関シ客月四日附機密第七〇号ヲ以テ御申越ノ次第ハ貴官御解釈ノ通御措置相成差支無之云々尤モ本件ハ既ニ浦港ニ於テ或程度迄了解成立シ支那側ハ支那艦長存在ナキモ其ノ私窮ニ関シテ折合ハサル為浦潮ヘ廻送セシメタルハ義ナルニ付在当地支那領事ト御協議ノ上仲裁ノ手段ヲ採

外務省

5-1457
0287
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ラルルトキハ領事團ノ判定ヲ俟ツ迄
モ無ク具情和解セシムル望モ有
之~~進出セシム~~當事者ノ派出（罷免セラルルニ付）
アラタニ除ハ状況ノ如キニ依リ但シ
トモ適宜（ノ方法ニ）御取計相成度右御
參考迄ニ申添~~置~~遣候本件ノ
~~進出~~ノ收容ハ（委細）別紙在尼港帝國
派遣軍民事部ヘ提出アリタル同地

在住民総代ノ陳情書寫ニ
依テ御了知相成度又本件當事
両當事者ハ一方尼港在住民ニ
シテ他方在尼港支那商人ニ
有之前者ハ弁護士「プロトポポフ」
（之ガ代表者タリ）~~主トシテ代表者トナリ~~後者ハ尼港在勤
支那領事ニ於テ之ヲ代表スルコトト
相成居候尚右方參

外務省

寺退ニ本件ニ関シテ在花堤在勤張
別領事ヨリ在当地支那領事
一務牒ヲ以テ電話ニテ問合ノ上回
報相成度此段申進候也

（別紙在花堤在間島總領事発七月廿
七日附機密第四八号附属書写
添付ノ事）

外務省

5-1457

0289

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

亞受16569號

大正九年十二月廿七日接受

主管 歐米 第一課

機密第七八號

大正九年十二月二十一日

在浦潮斯徳

總領事 菊池義郎

外務大臣伯爵内田康哉殿

要付了

支那砲艦保管金塊ニ關スル件

本件ニ關シ本月六日附既ニ機密第二六號貴信ヲ以テ本省ノ參考迄ニ本件ニ關シテ浦港在勤張副領事ヨリ在當地支那領事ヘ移牒シタル要領問合ノ上回報方御訓令ノ趣敬承依テ當館

0290
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

5-1457

029

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第3門

亜受 1272號

大正十年一月卅一日接受

主管 歐米局 第二課

機密第五號

大正十年一月二十二日

在浦潮斯徳
總領事 菊池義郎

要旨付了

外務大臣伯爵内田康哉殿

支那砲艦保管金塊ニ関スル件

本件ニ関シテハ曩ニ客年十二月二十一日附機密第七八號ヲ以テ一應及報告置候處其後本月十四日支那邵總領事ヨリ本官ニ対シ口頭ヲ以テ今回在北京前駐尼港張副領事ヨリ本件ニ関スル詳細ナル報告ニ接シタルヲ以テ右内容説明旁々本件ニ関スル商議ヲ爲シタキ旨内話

支那総領事（写）在尼港支那砲艦砲撃ニ付

ノ次第有之ニ付本官ハ今十九日當館主塚副領事ヲ本官代理トシテ先方ニ遣ハシ別記張副領事ヨリ報告ヲ容聽取調ベ方ヲ開議セシメ候処其際部總領事ヨリ先ツ主塚ノ質問ニ対シ本件ニ付張副領事ヨリノ報告ハ單ニ事件ノ終始頗ル主観的説明ニ止マリ別ニ今人ノ意見ヲ記シ居ラズ尤モ張カ當ニ厦門ニ於テ雙方代表者會合ノ席上露人側ノ支那砲艦保安中ノ金塊ノ半額ヲ要求セルニ対シ之ヲ肯ンセサリシモ在ノ一部ヲ窮民ニ対スル施救トシテ提供シタルコト（客年十月十六日附政ニ機密送第二二號貴信添付今年九月二十九日附機密第一〇三號在厦花岡一等書記官発本省大臣宛公信写參照）アルノ事実アルモ右ハ当時張カ一個ノ私見トシテ述ヘタルニ止マリ別ニ関係支那商人團ノ同意ヲ得タル次第ニハサル趣記載シアル旨ヲ語リ次テ部總領事ハ本件

5-1457

0293

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

金塊ニ関係アル支那商人ハ何レモ目下當地ニ来航滞在
中ナル所彼等ノ内ニハ曩ニ張副領事カ携帯送致シ来レル金
九布度三十七「ファイント」四十四「ソバートスツク」（客年九月二十九日
附在閘書記官発本省大臣宛機密第一〇三號写添附
書類（丙）参照）中ニ訴支那人中厄港ニ於テ自國砲艦ニ
保護方ヲ依頼セル婦人用金環又ハ懐中時計其他モ現物
ノ侭含ミ居ル旨許出タル者モアリ是等換分旁事件判定
ノ前提トシテ貴我立會ノ上前記金在中ノ捆包ヲ（金ヶ函入ノ
侭捆包目下支那總領事館ニ保管中ナリト云フ）開封セニコトヲ
提議シタルモ平塚ニ本件係争中ノ右捆包ヲ利害関係者
側ノ一方ノ申出ノミヲ信シ開封スルハ妥當ニ非サルヘキノミナラ
ズ開函ノ結果ハ却テ事件ヲ一層紛糾セシムルノ虞ナキヲ保
ス可カラズ該九布度餘入リ捆包ハ既ニ厄港ニ於テ関係者

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

双方合議ノ結果當地ニ移送ノ上其係領事團ノ判定ヲ處分
ニ委スコトトナリタルモノ（前々公信写添付書類（乙）参照）ニシテ張
副領事ニ於テモ之ヲ承知ノ上當地ニ移送シタル物件ナレバ今更
其内容物ニ対シ審査ヲ試ムル必要ヲ認メズ要スルニ被害露人
側ノ希望タル事後要求ニ対シ貴官カ之ニ同意セラルルヤ否
ヲ承知シタキニ在リト反問シタルニ邵総領事ハ前記金在
中ハ捆包ヲ開封スルニ非サレハ事件審査ノ材料ヲ発見シ得サル
ニ付貴問ニ対シテハ何等返答ヲ為シ難シトテ飽迄捆包開
封ノ必要ヲ主張シテ已マザルニ対シ本官ニ於テモ亦自己ノ主張ヲ固
持シテ開封ニ同意セザリシ次第ニ有之右様ノ次第ニテ本件ニ
関スル支那総領事トノ談判ハ一時中止ノ姿ト相成居候間右ニ
御承知相成候様致度此段報告申進候　敬具

5-1457

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

大正拾年参月廿六日接受 主管 歐米 第一課

外受 3626號

大正十年三月十七日

在浦潮斯徳

總領事 菊池義郎

要回付

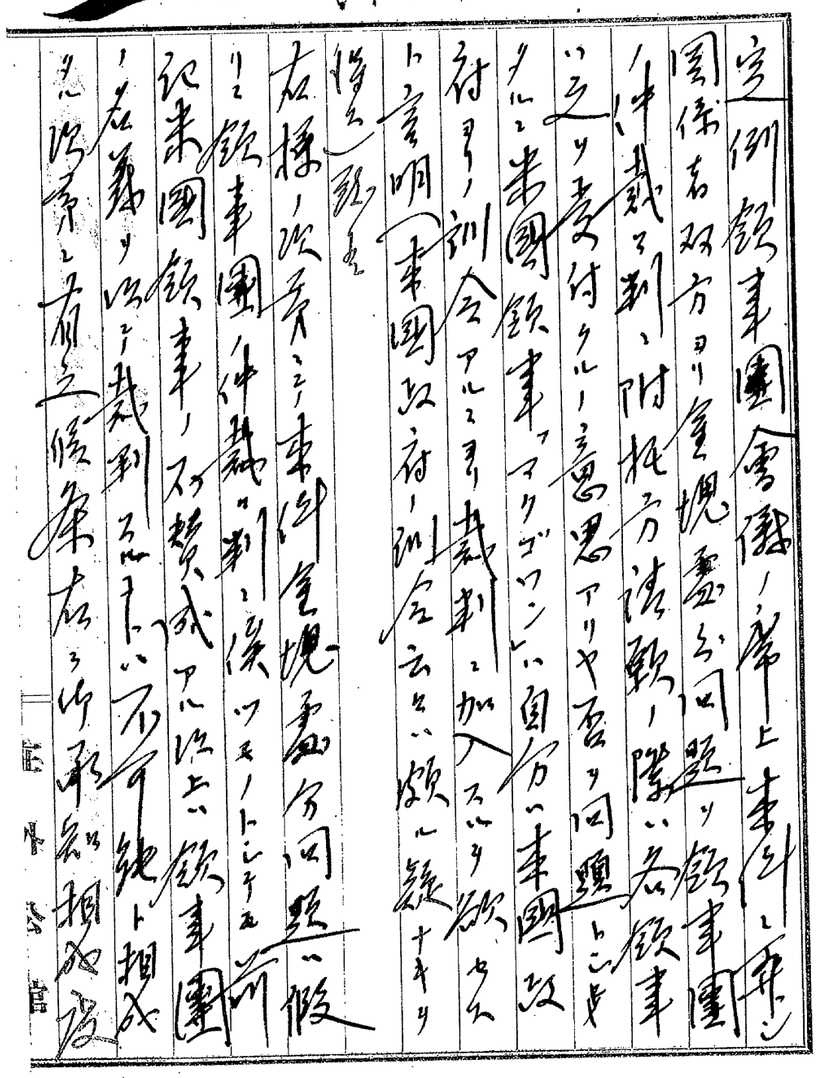
外務大臣 伯爵 内田康哉 殿

支那砲艦保管廃止ニ関スル件

本件ニ関シ客年十二月二十六日附機密送
第三十六號ノ貴信ヲ以テ御訓令ノ趣ニ基キ右當
地支那總領事ニ交渉ノ顚末ハ客年
十二月二十八日附機密第七八號並ニ本年
一月二十六日附公第五號往信ヲ以テ其都度

5-1457
0296
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

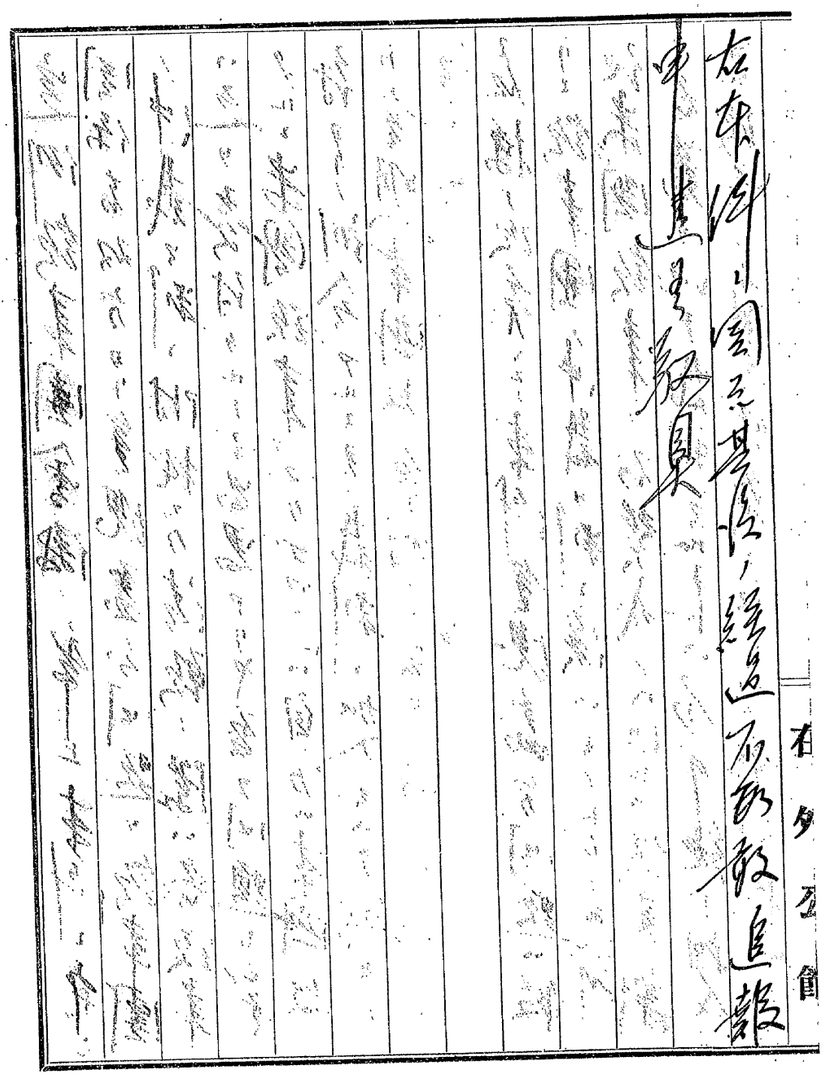
及吳報告候ニ其後元尼港在住島田
元吉郎蘇國弁護士「プロドポポフ」ノ両人
來浦當領事館ニ出頭シ右ニ付キ事實ハ両人ニ對
シ廣東事件ニ關スル支那總領事ト交渉
ノ結果ヲ説明シ此上ハ事件仲裁方ヲ當
地領事團ニ委任スルノ外ナク就テハ該告支
那側トモ協議ノ上双方ヨリ領事團ノ
仲裁判ニ附託方希望ノ旨右領事團ニ願書
提出ス可キ旨申聞ケ置キ處支那側ハ言ヲ左
右ニシ結局該願書提出ノ儀ヲ遷延セシメ
爲メ島田ハ支那側ノ不誠意ニ愛想ヲ盡
カシ「プロドポポフ」ノ一人ヲ當地ニ殘シ歸朝致ス
然ルニ部支那總領事ハ三月十六日開催ノ



5-1457

0298

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp



5-1457

0299

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

Я, ЯПОНСКІЙ ИМПЕРАТОРСКІЙ КОНСУЛЪ въ г. Николаевскѣ на Амурѣ удостовѣряю, что подписи Уполномоченнаго Сахалинскаго Областнаго Съѣзда Константина Александровича Емельянова, Предсѣдателя Совѣта Общества Рыбопромышленниковъ въ г. Николаевскѣ н /а. Іуды Романовича Рубинштеина, и Представителя Японской Колоніи въ г. Николаевскѣ н/а. Петра Николаевича Симада учинены въ моемъ присутствіи въ въ г. Николаевскѣ 28 Сентября 1920 года.

ЯПОНСКІЙ ИМПЕРАТОРСКІЙ КОНСУЛЪ ВЪ г. НИКОЛАЕВСКѢ.

Я С И М И З У

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

383

5-1457

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

МИЛОСТИВЫЙ ГОСУДАРЬ,

МИХАИЛЪ НИКОЛАЕВИЧЪ.

Настоящей довѣренностью мы уполномочиваемъ Васъ выступить нашимъ представителемъ передъ Консульскимъ Корпусомъ въ г. Владивостокѣ при разрѣшеніи вопроса о правѣ собственности на золото въ количествѣ девять пудовъ тридцать семь фунтовъ сорокъ четыре золотника пятьдесятъ семь долей, полученнаго Китайскими торговцами въ г. Николаевскѣ на амурѣ въ апрѣлѣ и маѣ мѣсяцахъ 1920 года за товары, переданныеими Комиссаріату Продовольствія и Торговли Николаевскаго округа.

Въ силу настоящей довѣренности Вы имѣете право подавать прошенія, заявленія, отзывы, вчинять встрѣныя требованія и давать отвѣты, подавать апелляціонныя и кассаціонныя жалобы и пользуетесь правомъ передовѣрія настоящей довѣренности. Кромѣ сего, на основаніи этой довѣренности Вамъ предоставляется право отъ нашего имени требовать возвращенія - двухъ съ половиною пудовъ золота, переданнаго представителямъ большевистской власти въ г. Николаевскѣ Китайскому Генеральному Консулу въ г. Владивостокѣ, а также и остальное золото, которое было передано Китайскому Консулу въ г. Николаевскѣ во время власти въ немъ большевиковъ, т.е. съ I марта по 2 Іюня 1920 года. Для указанной цѣли Вы имѣете право отъ нашего имени обращаться ко всѣмъ учрежденіямъ и лицамъ гдѣ бы таковые не находилось съ прошеніями, заявленіями, требованіями, протестами, отзывами подавать исковые, апелляціонныя и кассаціонныя жалобы, привлекать третьихъ лицъ и давать отвѣты предъ учрежденіями и лицами, гдѣ бы таковые не находилась.

Настоящая довѣренность принадлежитъ ПРИСЯЖНОМУ ПОВѢРЕННОМУ МИХАИЛУ НИКОЛАЕВИЧУ П Р О Т О П О П О В У.

Уполномоченный Сахалинскаго Областнаго Съѣзда ЕМЕЛЬЯНОВЪ

Предсѣдатель Совѣта Общества Рыбопромышленниковъ
въ г. Николаевскѣ н/а.

Представитель Японской Колоніи въ г. Николаевскѣ н/а.

Японскій подданный Петръ Николаевичъ мототаро
Симада

5-1457

書込一

親受 5960號

附屬書類添附

機密第三六號

大正拾年五月廿參日接受 主管 歐亞 第一課

別紙添附

大正十年五月十日

在浦潮斯徳 總領事 菊池義郎

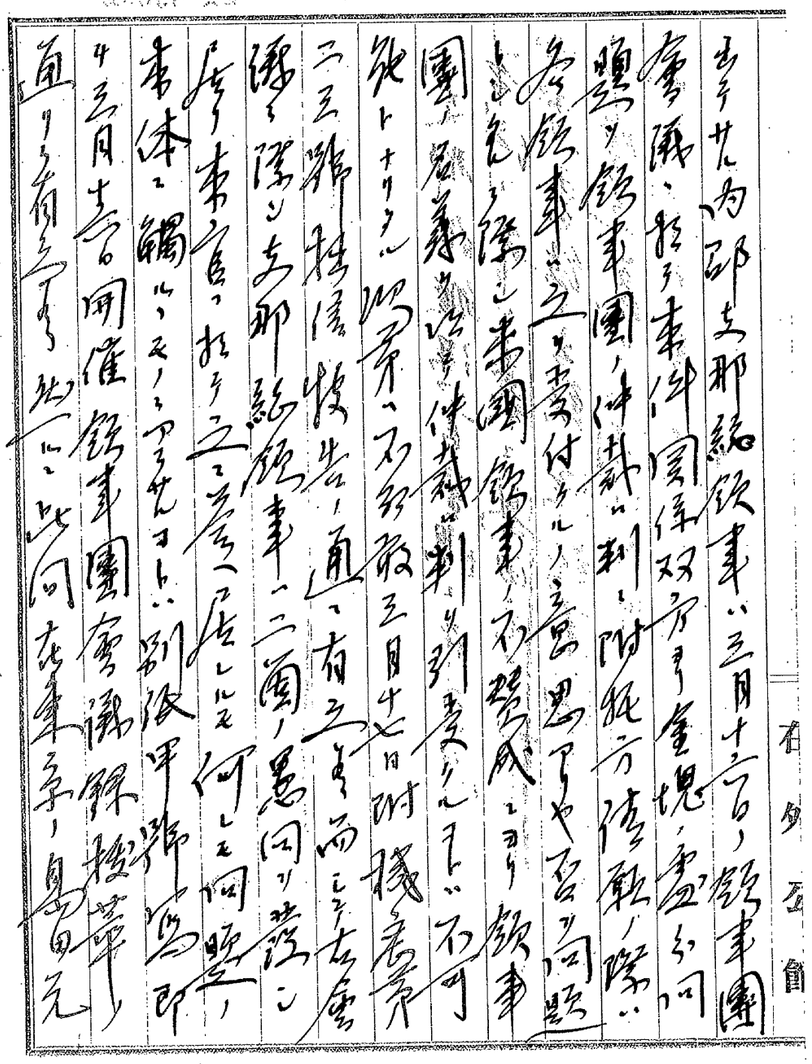
外務大臣伯爵内田康哉殿

支那砲艦保管金塊ニ關スル件

本件ニ關シ曩ニ島田元太郎並ニプロトポポフノ書類ニ基キ隊銃業團ノ仲裁ヲ判リ希望スル義モ有之候處支那人側ニテモ經過シタルトキハ双方ヨリ其旨銃業團ニ申出ノ必要アル旨ヲ申聞ケタルモ支那側ノ誠意ナキコト其後ニ

在外公館

武器弾薬（支）在浦潮支那砲艦砲弾ノ件



5-1457

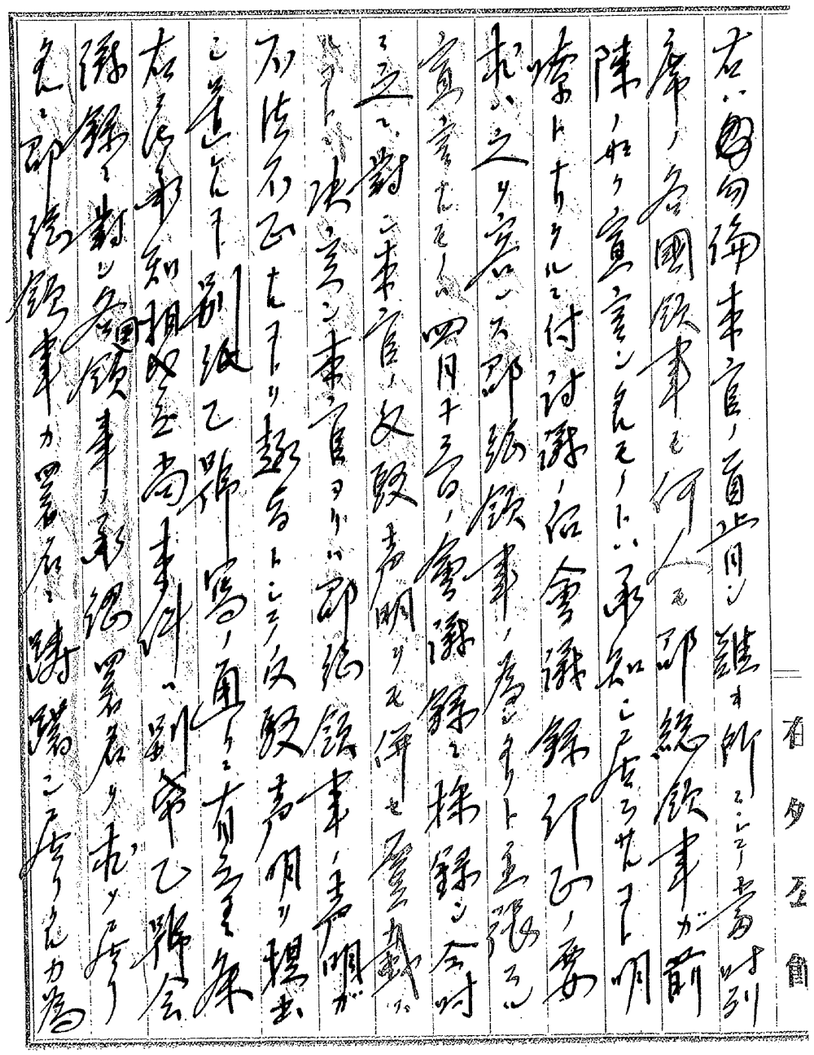
0303

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

5-1457

0304

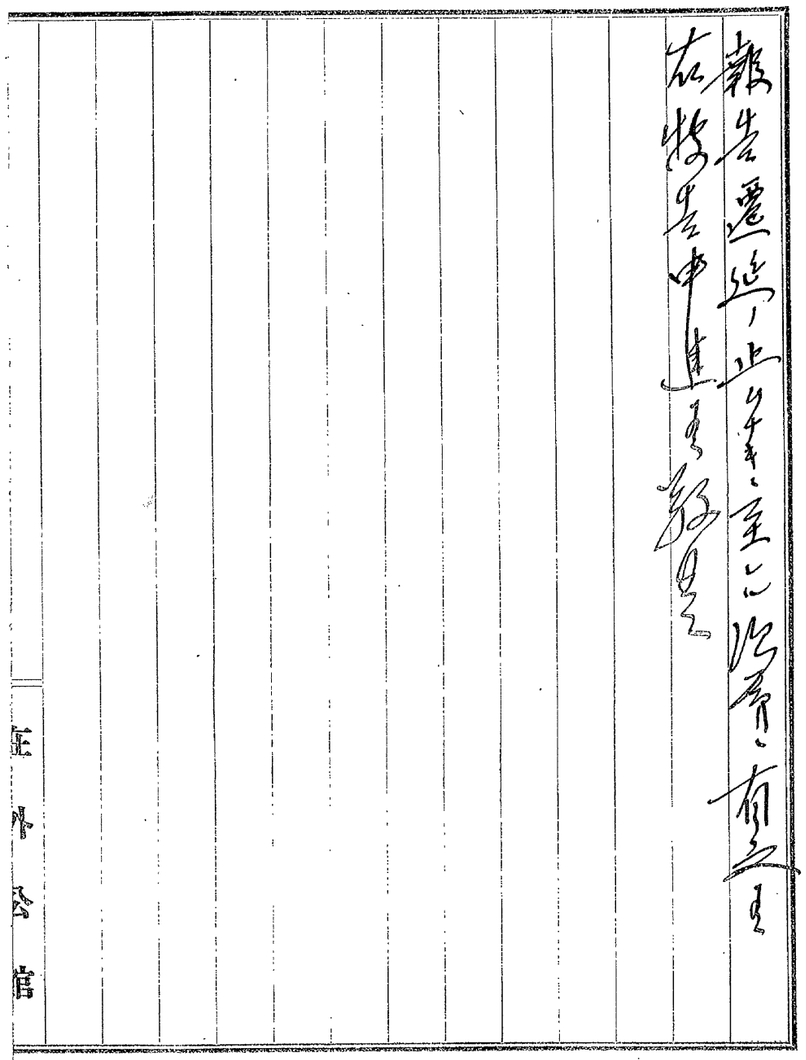
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp



5-1457

0305

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp



5-1457

0306

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

remembered that the matter having been explained repeatedly for the Chinese colleague by the Dean, there ought to be no doubts for the former on this subject.) Moreover, seeing that the aforesaid question was decided in the negative, it appears quite impossible that the Consular Corps should have made any discussion as to the substance of any particular and concrete case, no matter what concrete case the Chinese member meant to have submitted to the arbitration of the Consular Body, or no matter how earnestly the Japanese member supported such proposal. Furthermore, when it is realized that, even in the event of any statement having been presented relating to the substance of any concrete case before the Consular Body, which is not in a position to have understanding or offer any arbitration on the matter, the question would not have been regarded as coming under the scope of the consideration of the meeting and the Consular Body, from its standpoint, would have treated it as none of its concern, it appears quite reasonable that members of the Consular Corps should have no recollection of any statement having been made by the Chinese Consul General.

I have made mention above of the fact that the Chinese Consul General made a statement, on the subject which does not concern the Consular Body, and on which the same Body is not in a position to have any understanding or offer arbitration. The safe-keeping of the gold or the responsibility connected therewith is a matter to be discussed only between the Consuls directly concerned, as it noway related to the Consular Body. In view of these facts, I am quite unable to understand why the Chinese Consul General, who had not

communicated on the matter with the Japanese Consul General who is directly concerned therewith, should have presented his statement only to the Consular Corps which is absolutely not concerned. Being of such an opinion as described above, I consider it unreasonable to offer a counterstatement in the matter, following the example of the Chinese Consul General; nevertheless, inasmuch as the Consular Body has resolved to adopt the note of the Chinese Consul General in the minutes of its meeting on April 15th, I feel myself obliged to make a statement given above, to be incorporated in the same minutes.

5-1457

0307

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

to approach the Consular Body with a formal application requesting arbitration. Third, the Swedish Consul remarked at the same meeting that he remembered that at one of the previous meetings of the Consular Body there were some talks in regard to the responsibility for the safe-keeping of the gold as mentioned in the minutes of the 10th March, but that he did not recall whether the matter was brought up at the meeting on March 10th or some other date.

It should also be added here that I have noted the fact that no member of the Consular Body, who partook in the meeting on March 10th, excepting the Chinese and Japanese Consuls General had any definite recollection whether the Chinese Consul General had made the statement in question, not being therefore in a position to offer testimony on the present discussion. And this fact appears to me quite comprehensible in consideration of the following features of the matter:

(1) The Chinese Consul General, if he had chosen, would have have had ample opportunity to send in a statement as per attached note, to the Consular Body. For instance, the Chinese Vice-Consul was present at the meeting on March 30th. Moreover, since that time there was a period of two weeks prior to the despatch of the note above mentioned, which means that during so long a time the Chinese Consul General took no step to proceed with the matter.

(2) The Consular Body at its meeting on March 16th, discussed in principle the question whether the Consular Body, when called upon to act as arbiter on any case, should agree to undertake such. This is recorded in the minutes. (It may be also

5-1457

0308

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

I approve of the passage
concerning me
D. Setsuo
Asst Danish Vice Consul

5-1457

0309

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

holds forth the demand that a certain portient of the statement accredited to me be put off the record. However, having certain and clear memory of the statement. I made on the occasion, I fail to see any reason why my statement should be effaced from record. My statement which was made in response to the Chinese Consul General should remain, no matter whether the latter's remarks were made in the form of question or statement.

With regard to Article one above, I feel it necessary to state it in unequivocal terms that I have no intention of criticising the notevpresented by the Chinese Consul General. I only wish to make it clear that I had no knowledge of there having been made an statement such as the Chinese Consul General claims to have made. Nor is it in my competence to state here whether the discrepancy seen in the matter is due to the misinterpretation or misunderstanding on the part of the interpreter. Therefore I have no intention to touch on the question whether it is true or not, that the Chinese Consul General had previously made such statement as he maintains. Nevertheless, I feel the necessity of mentioning here a few points in the same connection: First, immediately after the meeting on March 10th, I requested the Secretary, prior to his leaving the conference room, to put down in written form, while his memory was fresh, all data relating to the discussion on the question in issue, and the Secretary did accordingly. Second, our Danish colleague remarked at the meeting on the 13th April that he had remembrance of the fact that at the meeting of March 10th I stated that it would be "superfluous" now

5-1457

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

With reference to the note, as per attached note, which was presented by the Chinese Consul General at the meeting on April 13th of the Consular Body, the meeting resolved that the minutes of the meeting of the same Body on March 10th be left intact, as previously drawn up, and that the same note be included in the minutes of the meeting on April 13th. This resolution was adopted on the understanding that the last mentioned minutes should also incorporate the note to be presented by the Japanese Consul General upon the basis of the statement he made at the same meeting counter to the note sent in by the Chinese colleague. In accordance with the aforesaid resolution I wish to make hereby a statement, to be included in the same minutes as mentioned above, upon the basis of the statement I verbally made extemporaneously on the same occasion, as follows:

"With regard to the statement by the Chinese Consul General to the effect that,'On the ground that the consular Body does not wish in principle to undertake arbitration on any case, he considers himself relieved of the responsibility for the safe-keeping of the gold,' the Japanese Consul General regards such statement as unjust and illegal, not based on any justifiable grounds."

Further, I wish to add here several points in reference to the statement of the Chinese Consul General as well as my statement above.

I. I have no knowledge of there having been previously made any statement such as the Chinese Consul General claims to have made.

II. The Chinese Consul General, in his note, beyond proposing amendment of the minutes as concerning his own statement

5-1457

0311

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

Extract from the [illegible] of the [illegible] meeting held at the Chinese Consulate General, Nov. 14-21.

Thus the statement of the American Consul cleared the matter altogether in the negative form, as it became evident that the Consular Body as such would be unable to constitute a ruling body for arbitration.

Following this the Chinese Consul General requested an answer to the following questions:

1 / If the Consular Body declines to accept any case for arbitration, will it be necessary for him to keep the gold any longer.

2 / And will, it still be necessary to approach the Body with a formal application requesting arbitration.

Responding to these two question the Chairman Mr. Kikutchi stated that the Consular Body had been discussing the matter in principle. Whether or not the Body would accept any case for arbitration, on the other hand the question of the keeping of the gold was not mentioned when the general question was submitted, and that this particular question appertained somewhat to the substance of the case on which arbitration was expected and therfor the Consular Body would be incompetent to enter upon it. Likewise the Consular Body had no interest whatever upon the question of the keeping of the gold, which would seem a private affair alltogether, to be settled between Consuls concerned.

As to the last question it would follow of itself that such application would be superfluous.

.....

93:
5-1457

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.gov.jp

93

tract from the Minutes of the CONSULAR CORPS MEETING held at the panese Consulate General on April 13-1921 in Vladivostok.

endments of minutes dated March I6 requested by the Chinese Consul General.

Mr.Chao Hen Tzun hand the Secretary the following note containning amendmends to the minutes of the Meeting of Consuls dated March I6-I92I.

Note of the Chinese Consul General.

Amendment of Minutes of the Meeting of the Vladivostock Consul Body of Mamch I6-I92I, proposed by the Chinese Consul General on Apri I3-I92i,he having been unable to attend the meeting of March 30,and having sent Vice-Consul to request the postponement of the Minutes. Strike out all matter begining "Following this the Chise Consul General requested"and sending with word""superfluous",and substitues the following:

"The Chinese Consul General then requested the Secretary of the Consular Body to enter in the Minutes of the meeting,that he now considered himself released from the responsibility, under arrangements made by private conference at Nikolaefsk,for the safe keeping of the gold,forward to hom from the city,pending the arbitration of the Consular Body at Vladivostock of Ownership of the gold.

After reading was made of the foregoing note Mr.Chao Hen Tzun stated at the said meeting he never put the two questions attributed to him in the minutes,but simply made a statement as expressed in his note,and that he explains this occurence as a misunderstanding from on part of the Secretary. Resolved unanimously that the minutes of the Consular Meeting under date of March I6-I92I be left intact,as previouly drawn up,~~and that the note of Chinese Consul General be embodied~~

5-1457

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

and that the note of the Chinese Consul General be embodied in the minites of to-days meeting of April I3th I92i together with note to be presented by the Japanese Consul General Mr.Kikutchi upon the basis of ~~the~~ the statement made by him at todays meeting,following the note of the Chinese Consul General ~~of~~ and counter to it.

Note of the Japanese Consul General.

The aforesaid note of the Japanese Consul General Mr.Kikutchi in copy was in due time sent to the Consuls and ~~with~~ is herewith attended.

Respectfully submitted.

APPROVED ;

~~Approved~~

A. A.de Bodisco.

Secretary.

5-1457

門題項號

支那關稅保管金塊ニ關スル件

大正九年春過激派ハ尼港ニ於ケル日露兩國民所有ノ金塊ヲ奪取シ之ヲ以テ支那領事及支那商人トノ爲シタル取引決濟ノ具ニ供シ支那側ハ右金塊約四十三貫ヲ當時同地碇泊中ノ支那砲艦内ニ保管シ置ケリ。

同年七月被害者ハ其取戻方ヲ當時尼港ニ在リタル花岡書記官ニ請願シ來レルヲ以テ同官ハ當時同シク同地ニ出張中ナリシ玉瀬年氏ト協議シ同氏ノ希望ニヨリ本問題ハ一方支那領事及支那商人代表者ト他方被害者側日露代表者トノ間ニ協定セシムルコトトシ九月廿日會合セシメタルモ議纏ラス結局只在浦潮領事團ノ決定ニ委スコトニ協定シ該金塊ハ浦潮ニ送致シ之ヲ支那總領事館ニ保管スルコトトナレリ

大正九年末ヨリ翌十年一月ニ亘リ在浦潮帝國總領事ハ支那總領事ニ對シ領事團ノ仲裁ニ先チ本件ノ穩便解決方交渉シタルモ同總領事之ニ應セサリシヲ以テ帝國總領事ハ被害者側代表者ニ對シ支那側ト協議ノ上双方ヨリ領事團若クハ領事ノ仲裁裁判ヲ請ヒ度旨ノ願書提出方申聞ケタルモ此亦支那側ノ不誠意ニヨリ其擧ニ出テ得サリシ中三月十六日領事團會議席上本件請願書提出ノ際ハ各領事ハ之ヲ受付ケル意思アリヤ否ヤヲ問題トシタルカ米國領事ハ之カ仲裁裁判ニ加入セサル旨言明セリ

玆ニ於テ領事團トシテ本件ノ仲裁ヲ爲シ得サルコトトナリタルヲ以テ帝國總領事ハ各國領事ノ任意ノ行動トシテ本件ノ仲裁方ヲ承諾スヘキ領事ノ仲裁ヲ求ムルノ外無之考ニテ被害者側代表者（日本側ハ鳥田元太郎）ニ對シ其旨說示スル處アリタルカ折柄支那總領事ノミ

大正十三年貳月六日　記錄係受

（已號用紙）

外務省

（已號用紙）

外務省

5-1457

0315

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

外務省

ナテス我方總領事ノ交渉アリ從テ事件遷延シタルカ其後猶在浦潮總領事ヨリ支那側ニ對シ數次交渉ヲ試ミタル結果ナルモ今猶解決セリトノ報告ニ接セス

（色號用紙）

5-1457

0316

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp